**株式会社アシックス**



# ストップ&ジャンプ自在。

## グリップ力抜群のニューソール装備、新製品〈スカイハンドスペシャル〉

アシックスタイガーの新製品 スカイハンドスペシャル はストップ&ジャンプが自在にできるハンドボール専用シューズです。
写真の底意匠にご注目ください。複雑なトレッド(溝)をソール全面に刻み込んでいます。これは、ハンドボール特有の、多角的な動きに対応するためで、とくに拇指球下のリング状意匠はグリップ力を飛躍的に高めます。このため、選手は思うようにストップでき、また思うようにジャンプすることができます。
●甲被はステア表革と銀付ベロアの2タイプ。●独創のカップソールは甲被を食わえ込む設計で、足ブレを防ぎます。●大型ヒールカウンターはカカトをガッチリ保持し、選手の動作能力を高めます。
●軽さ、クッション性も卓越。
ストップ&ジャンプの スカイハンドスペシャル で栄光をつかんでください。

**asics TIGER®**

**Handball Shoes**

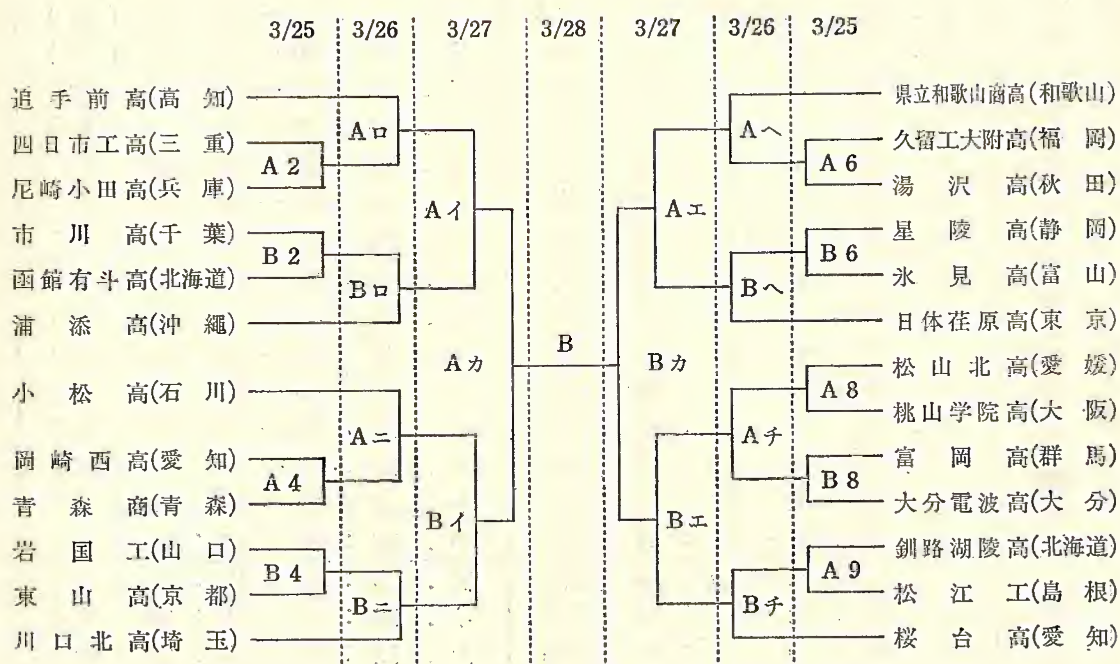
**スカイハンドスペシャル**

**スカイハンド スペシャル**(THH705) **NEW**

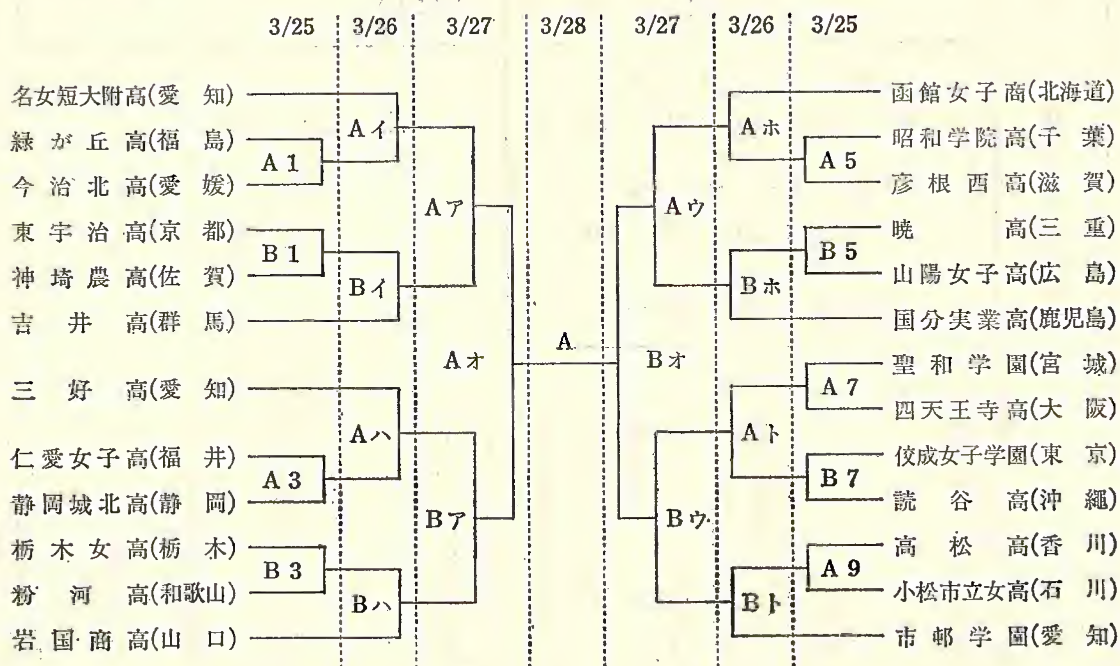
●甲被はステア表革(ホワイト)、銀付ベロア(レッド、ロイヤルブルー)、裏地はナイロン。●アウターソールはラバーのカップソール。●ロイヤルブルー×ホワイト、ホワイト×レッド、レッド×ホワイト。●サイズ 22.5~28.0cm
標準小売価格 ¥12,000

# 昭和57年度全国高等学校選抜大会組合せ

（男子の部）




（女子の部）



## 全国高校選抜大会競技日程（案）

| | Aコート（西） | Bコート（東） |
|---|---|---|
| 第1日（3月25日） | 1．9：30～10：20（女） | 1．9：30～10：20（女） |
| | 2．10：30～11：30（男） | 2．10：30～11：30（男） |
| | 3．11：40～12：30（女） | 3．11：40～12：30（女） |
| | 4．12：40～13：40（男） | 4．12：40～13：40（男） |
| | 5．13：50～14：40（女） | 5．13：50～14：40（女） |
| | 6．14：50～15：50（男） | 6．14：50～15：50（男） |
| | 7．16：00～16：50（女） | 7．16：00～16：50（女） |
| | 8．17：00～18：00（男） | 8．17：00～18：00（男） |
| | 9．18：10～19：00（女） | 9．18：10～19：10（男） |
| 第2日（3月26日） | イ．9：30～10：20（女） | イ．9：30～10：20（女） |
| | ロ．10：30～11：30（男） | ロ．10：30～11：30（男） |
| | ハ．11：40～12：30（女） | ハ．11：40～12：30（女） |
| | ニ．12：40～13：40（男） | ニ．12：40～13：40（男） |
| | ホ．13：50～14：40（女） | ホ．13：50～14：40（女） |
| | ヘ．14：50～15：50（男） | ヘ．14：50～15：50（男） |
| | ト．16：00～16：50（女） | ト．16：00～16：50（女） |
| | チ．17：00～18：00（男） | チ．17：00～18：00（男） |
| 第3日（3月27日） | ア．9：30～10：20（女） | ア．9：30～10：20（女） |
| | イ．10：30～11：30（男） | イ．10：30～11：30（男） |
| | ウ．11：40～12：30（女） | ウ．11：40～12：30（女） |
| | エ．12：40～13：40（男） | エ．12：40～13：40（男） |
| | オ．13：50～14：40（女） | オ．13：50～14：40（女） |
| | カ．14：50～15：50（男） | カ．14：50～15：50（男） |
| | 3　位　表　彰　式 | 16：00 |
| 第4日（3月28日） | 女子決勝<br>A　10：00～10：50<br><br>男子決勝<br>B　11：00～12：00<br><br>閉会式　12：10～ | |

開　会　式

24日　午後3時

（於　愛知県体育館）

『ハンドボール』

58年3月号（第216号）目次



【表紙写真】昭和57年度全国高校選抜大会の組合せ、日程表

# 昭和57年度 全国高校選抜大会 出場校メンバー

男子

### ◆函館有斗高校

<北海道>

○監督　長谷川軍司
○ＧＫ①小野武久（１年）
171cm　65kg
⑫三上嘉人（１年）
175cm　67kg
○ＦＰ②茂木　健（２年）主将
173cm　66kg
③有本　勇（２年）
171cm　61kg
④野田竜一（２年）
161cm　46kg
⑤今井康雄（２年）
168cm　61kg
⑥上林嘉則（２年）
165cm　60kg
⑦小野賢貴（２年）
168cm　56kg
⑧川口智史（２年）
163cm　52kg
⑨匂坂勝志（２年）
171cm　60kg
⑩神　智生（１年）
184cm　60kg
⑪富樫栄一郎（１年）
178cm　65cm

### ◆釧路湖陵高校

<北海道>

○監督　小島収治
○ＧＫ①花畑教之（２年）
180cm　70kg
⑫長尾淳三（１年）
170cm　58kg
○ＦＰ②田村浩紀（２年）主将
163cm　55kg
③本間尚彦（２年）
175cm　63kg
④立沢俊也（２年）
171cm　55kg
⑤杉村荘平（２年）
180cm　70kg
⑥須藤　淳（２年）
177cm　62kg
⑦小林宣彦（２年）
160cm　47kg
⑧中村公司（１年）
175cm　66kg
⑨神　好人（１年）
171cm　55kg
⑩舟山明嘉（１年）
173cm　55kg
⑪加藤　聡（１年）
171cm　55kg

### ◆県立富岡高校

<群馬県>

○監督　宇佐美幸彦
○ＧＫ①清水博司（２年）主将
174cm　64kg
⑫斉藤　正（１年）
167cm　60kg
○ＦＰ②浅香勝利（１年）
169cm　60kg
③下川　晃（２年）
170cm　66kg
④小金沢吉仁（２年）
174cm　65kg
⑤上原　久（２年）
168cm　59kg
⑥長岡智久（２年）
163cm　57kg
⑦松原千哲（１年）
171cm　56kg
⑧柴田守弘（２年）
167cm　62kg
⑨野口　太（１年）
177cm　65kg
⑩矢野秀和（２年）
169cm　56kg
⑪岡野克己（２年）
174cm　69kg

### ◆県立湯沢高校

<秋田県>

○監督　由利　弘
○ＧＫ①大沼一義（２年）
180cm　70kg
⑫菅原秀輝（１年）
172cm　62kg
○ＦＰ②髙橋俊英（２年）主将
168cm　60kg
③伊藤　守（２年）
178cm　68kg
④長沢純平（２年）
186cm　75kg
⑤斎藤慎太郎（２年）
189cm　78kg
⑥藤原孝寿（２年）
169cm　65kg
⑦佐藤正和（１年）
171cm　65kg
⑧庫山　徹（１年）
168cm　61kg
⑨斉藤　敏（１年）
182cm　65kg
⑩古山広和（１年）
173cm　60kg
⑪松田幸喜（１年）
174cm　63kg

### ◆県立青森商業高校

<青森県>

○監督　岡本和夫
○ＧＫ①鹿内　聡（２年）
178cm　72kg
⑫——
○ＦＰ②柳谷　聡（２年）主将
163cm　60kg
③山野忠一（２年）
184cm　78kg
④伊原康彦（１年）
172cm　58kg
⑤小笠原孝浩（２年）
178cm　72kg
⑥室谷光昭（２年）
164cm　55kg
⑦長洞直毅（１年）
170cm　63kg
⑧柳谷秀康（２年）
170cm　60kg
⑨三上敦也（１年）
180cm　64kg
⑩千葉英雄（１年）
170cm　60kg
⑪西部秋一（１年）
165cm　53kg

◆市川高校

＜千葉県＞

○監督　釜谷　泉
○ＧＫ①平松　裕（２年）主将
172cm　85kg
⑫早乙女敬章（１年）
164cm　63kg
○ＦＰ②新地秀平（２年）
177cm　66kg
③清瀬慎一（２年）
184cm　66kg
④井上武人（２年）
166cm　56kg
⑤渡辺繁之（２年）
166cm　55kg
⑥矢吹　歩（１年）
172cm　58kg
⑦立元章善（１年）
168cm　61kg
⑧勝又友章（２年）
163cm　55kg
⑨川鍋正行（１年）
172cm　69kg
⑩菅澤靖夫（１年）
180cm　70kg
⑪尾沼勝司（１年）
184cm　69kg

◆日体荏原高校

＜東京都＞

○監督　小林平八
○ＧＫ①花本昌宏（２年）
178cm　65kg
⑫大原政文（２年）
183cm　70kg
○ＦＰ②林　功（２年）主将
178cm　68kg
③根本雅司（２年）
171cm　60kg
④吉田孝一（２年）
180cm　68kg
⑤横堀則和（２年）
175cm　69kg
⑥真野秀二（２年）
165cm　60kg
⑦明石康宏（２年）
185cm　78kg
⑧西川信行（２年）
176cm　67kg
⑨渡辺　孝（２年）
167cm　58kg
⑩長原武志（１年）
173cm　65kg
⑪福田和広（２年）
173cm　60kg

◆県立川口北高校

＜埼玉県＞

○監督　土屋雅男
○ＧＫ①渡辺隆二（１年）
175cm　60kg
⑫三原正規（２年）主将
180cm　65kg
○ＦＰ②岩崎正博（２年）
174cm　65kg
③西宮　豊（１年）
170cm　66kg
④高須一裕（１年）
169cm　55kg
⑤戸田宗幸（２年）
174cm　65kg
⑦増田貴哉（１年）
165cm　58kg
⑨萩原　稔（２年）
173cm　65kg
⑩永島　進（２年）
174cm　65kg
⑬原田仁志（２年）
176cm　70kg
⑭吉岡智之（２年）
178cm　66kg
⑮塚田慎一（１年）
170cm　63kg

◆県立小松高校

＜石川県＞

○監督　古橋幹夫
○ＧＫ①山崎昭彦（２年）
171cm　63kg
⑫林　繁（１年）
173cm　60kg
○ＦＰ②平野清成（１年）
169cm　54kg
③矢地昌平（２年）
173cm　66kg
④加藤孝治（２年）
172cm　58kg
⑤寺下拓也（２年）主将
171cm　63kg
⑥永井博人（２年）
168cm　54kg
⑦酢谷　浩（２年）
170cm　56kg
⑧堀江典生（１年）
166cm　60kg
⑨村中英夫（１年）
174cm　56kg

◆県立氷見高校

＜富山県＞

○監督　徳前啓人
○ＧＫ①桜打佳浩（２年）
175cm　69kg
⑫山田光彦（１年）
172cm　59kg
○ＦＰ②岩上浩一郎（１年）
176cm　66kg
③前山徳彦（２年）
177cm　64kg
④堀川健志（２年）
173cm　60kg
⑤山本幹雄（１年）
170cm　61kg
⑥大伴　裕（２年）主将
175cm　57kg
⑦北山和仁（２年）
167cm　57kg
⑧吉木正浩（２年）
173cm　63kg
⑨杉本孝司（２年）
177cm　70kg
⑩森　義久（１年）
164cm　63kg
⑪春木竜馬（１年）
176cm　75kg

◆星陵高校

（静岡県）

○監督　細沢　覚
○ＧＫ①和久田孝治（２年）
181cm　72kg
⑫小泉雅紀（２年）
177cm　72kg
○ＦＰ②大井英臣（２年）主将
177cm　68kg
③飯嶋邦康（２年）
183cm　75kg
④細谷直弘（２年）
186cm　80cm
⑤本田勝美（２年）
182cm　65kg
⑥佐野俊洋（２年）
180cm　68kg
⑦渡辺富士男（２年）
172cm　68kg
⑧寺尾博延（２年）
175cm　62kg
⑨宇治邦記（２年）
166cm　60kg
⑩市野雅大（２年）
180cm　69kg
⑪福島博文（２年）
166cm　58kg

## ◆県立四日市工業高校

＜三重県＞

○監督　川畑幸永
○ＧＫ①杉山英喜（２年）
170cm　60kg
⑫奥村陽司（１年）
180cm　68kg
○ＦＰ②服部俊治（２年）
178cm　65cm
③伊藤直三（２年）主将
167cm　62cm
④菊池一也（２年）
167cm　60kg
⑤西村仁志（２年）
176cm　65kg
⑥南部　豊（２年）
173cm　65kg
⑦鈴木義幸（２年）
173cm　62kg
⑧中村敏明（２年）
173cm　62kg
⑨小倉　崇（２年）
170cm　63kg
⑩水谷俊之（２年）
170cm　62kg
⑪伊藤伸二（１年）
172cm　68kg

## ◆名古屋市立桜台高校

＜愛知県＞

○監督　秋山尚樹
○ＧＫ①長船宏昭（２年）
179cm　67kg
⑫野坂利之（１年）
180cm　65kg
○ＦＰ②津兼秀行（１年）
179cm　65kg
③平松千章（２年）主将
178cm　70kg
④加藤信彦（２年）
165cm　56kg
⑤黒田恒己（２年）
178cm　67kg
⑥三輪一義（２年）
177cm　68kg
⑦山下智寛（１年）
172cm　55kg
⑧塩坂芳彦（１年）
179cm　62kg
⑨舘本真吾（２年）
169cm　56kg
⑩山田基弘（１年）
172cm　56kg
⑪澤田寿夫（１年）
174cm　62kg

## ◆岡崎城西高校

＜愛知県＞

○監督　本多光雄
○ＧＫ①橋本行弘（２年）
186cm　72kg
⑫島田敏昭（１年）
181cm　73kg
○ＦＰ②吉見有正（２年）主将
169cm　56kg
③畑田和彦（１年）
174cm　65kg
④柴田浩之（２年）
175cm　63kg
⑤草野雅彦（１年）
172cm　59kg
⑥中島　洋（１年）
173cm　61kg
⑦宮崎裕治（２年）
167cm　57kg
⑧酒井茂明（２年）
181cm　78kg
⑨井上勝則（２年）
169cm　60kg
⑩堀　恵輔（２年）
178cm　68kg
⑪小栗国広（１年）
165cm　50kg

## ◆県立和歌山商業高校

＜和歌山＞

○監督　尾高義彦
○ＧＫ①岸　正純（２年）
173cm　66kg
⑫今宮陽平（１年）
169cm　53kg
○ＦＰ②川本恭資（２年）主将
170cm　60kg
③太田昌人（２年）
180cm　70kg
④泉尾建次（２年）
163cm　55kg
⑤宮崎一郎（２年）
177cm　59kg
⑥中井淳之（２年）
177cm　60kg
⑦辻本敏之（２年）
175cm　64kg
⑧山下秀夫（１年）
177cm　65kg
⑨村田亮彦（１年）
164cm　47kg
⑩山本佳伸（２年）
169cm　67kg
⑪出野靖博（２年）
181cm　63kg

## ◆桃山学院高校

＜大阪府＞

○監督　髙橋精一
○ＧＫ①政田和久（１年）
176cm　64kg
②安達哲哉（１年）
174cm　66kg
○ＦＰ②杣山英司（２年）
166cm　60kg
③井内宏征（２年）主将
177cm　72kg
④大原穰二（２年）
182cm　82kg
⑤納　功（２年）
174cm　67cm
⑥埜田祐生（２年）
174cm　67kg
⑦野田次郎（２年）
177cm　65kg
⑧戸田貴之（２年）
170cm　62kg
⑨浜田敏克（１年）
165cm　59kg
⑩中林　優（１年）
175cm　67kg
⑪福田龍作（１年）
166cm　60kg

## ◆東山高校

（京都府）

○監督　堀田靖人
○ＧＫ①馬場　功（２年）
180cm　74kg
⑫吉田光男（１年）
179cm　78kg
○ＦＰ②安部克典（１年）
180cm　62kg
③岡　昌賢（１年）
183cm　78kg
④城　一雅（１年）
171cm　61kg
⑤香西賢治（１年）
170cm　56kg
⑥酒井一登（２年）主将
175cm　70kg
⑦百成伸弘（２年）
168cm　55kg
⑧髙尾圭亮（２年）
180cm　70kg
⑨滝本貴之（２年）
170cm　58kg
⑩後藤　亥（２年）
168cm　62kg
⑪前原良昭（２年）
174cm　55kg

### ◆県立岩国工業高校
＜山口県＞

○監督　青木　操
○ＧＫ①前田裕之（２年）
168cm　57kg
⑫吉屋孝彦（２年）
177cm　69kg
○ＦＰ②横井和孝（１年）
188.5cm　66kg
③中本千和紀（２年）
179cm　74kg
④今金和茂（２年）
179cm　65kg
⑤島里　誓（２年）主将
173.3cm　70kg
⑥冨永治己（２年）
170cm　60kg
⑦弘岡伸治（２年）
165.2kg　56kg
⑧冨川弥一（２年）
166cm　62kg
⑨藤井裕喜（２年）
174cm　66kg
⑩三津井利典（２年）
167cm　60kg
⑪松前健治（１年）
166cm　56kg

### ◆県立松江工業高校
＜島根県＞

○監督　佐々布都好
○ＧＫ①湯浅　弘（２年）
176cm　66kg
⑫細木康弘（１年）
173cm　63kg
○ＦＰ②菅田英明（２年）
170cm　63kg
③森脇哲夫（２年）
176cm　65kg
④井上由紀夫（２年）
165cm　54kg
⑤金崎健司（２年）
167cm　57kg
⑥松本一俊（２年）
167cm　67kg
⑦渡部直樹（２年）主将
176cm　62kg
⑧吾郷都至男（２年）
168cm　54kg
⑨三島伸一（１年）
166cm　58kg
⑩永谷年司（１年）
168cm　57kg
⑪堀内厚志（１年）
160cm　50kg

### ◆県立尼崎小田高校
＜兵庫県＞

○監督　迫野洋由
○ＧＫ①山下勝弘（２年）
179cm　62kg
⑫小寺淳夫（１年）
165cm　54kg
○ＦＰ②岩田義美（２年）
165cm　50kg
③市村　実（２年）
177cm　65kg
④吉田淳史（２年）
174cm　58kg
⑤北島伸吾（２年）
173cm　57kg
⑥阪本雅彦（２年）
174cm　64kg
⑦篠原政明（２年）主将
167cm　63kg
⑧高木弘之（２年）
182cm　87kg
⑨白樫　修（１年）
165cm　52kg
⑩秀岡勇三（１年）
167cm　51kg
⑪二川一彦（１年）
168cm　50kg

### ◆久留米工業大学附属高校
＜福岡県＞

○監督　古賀　昇
○ＧＫ①秋吉哲男（２年）
190cm　78kg
⑫坂本詔一（１年）
173cm　63kg
○ＦＰ②片山勝立（２年）
176cm　67kg
③甲斐章義（１年）
181cm　65kg
④久保田竹彦（２年）
175cm　55kg
⑤中西孝治（２年）
164cm　56kg
⑥野中朋友（２年）
182cm　65kg
⑦永松義浩（２年）
177cm　69kg
⑧村田文彦（１年）
179cm　60kg
⑨樋口錠二（２年）
177cm　62kg
⑩坂田幸治（２年）
173cm　65kg
⑪森下秀昭（２年）
176cm　65cm

### ◆県立高知追手前高校
＜高知県＞

○監督　野村幸司
○ＧＫ①国沢正久（２年）
172cm　55kg
⑫岸本修一（１年）
171cm　66kg
○ＦＰ②山脇　潤（１年）
175cm　65kg
③山崎祐介（２年）主将
170cm　63kg
④西川雅也（１年）
172cm　55kg
⑤石井吉則（２年）
160cm　50kg
⑥近田　治（２年）
162cm　52kg
⑦友草隆志（１年）
174cm　57kg
⑧中山誠志（１年）
166cm　50kg
⑨川村卓史（２年）
172cm　60kg
⑩宮崎光一（１年）
164cm　53kg
⑪川上雅資（２年）
176cm　55kg

### ◆県立松山北高校
＜愛媛県＞

○監督　野中　聡
○ＧＫ①吉川直樹（２年）
172cm　63kg
⑫大野尚文（２年）
177cm　66kg
○ＦＰ②石丸雅彦（２年）主将
175cm　69kg
③山本耕一（２年）
174cm　67kg
④石丸　陽（２年）
180cm　75kg
⑤井手栄治（２年）
177cm　69kg
⑥門田祥二（２年）
167cm　59kg
⑦野田一人（２年）
182cm　70kg
⑧篠原真司（２年）
172cm　66kg
⑨白石知史（２年）
173cm　59kg
⑩篠原真三（１年）
174cm　62kg
⑪沖永瑞智（１年）
166cm　54kg

# 昭和57年度全国高校選抜大会出場校メンバー

女子

◆函館女子商業高校
＜北海道＞

○監督　新妻公平
○ＧＫ①越後谷芳子（２年）
162cm　57kg
⑫佐々木美子（２年）
168cm　55kg
○ＦＰ②大谷真澄（２年）主将
162cm　55kg
③海道昭子（２年）
170cm　56kg
④海道元子（２年）
171cm　55kg
⑤大釜朋恵（２年）
157cm　54kg
⑥旭　静代（２年）
162cm　58kg
⑦長谷川はるみ（１年）
158cm　48kg
⑧平田公枝（１年）
168cm　56kg
⑨三浦千秋（１年）
167cm　65kg
⑩浜田寿代（１年）
160cm　57kg
⑪佐藤彩子（１年）
155cm　57kg

◆大分電波高校
＜大分県＞

○監督　富松秋実
○ＧＫ①藤内竜之助（１年）
176cm　63kg
⑫藍沢国幸（１年）
190cm　81kg
○ＦＰ②後藤健二（１年）
180cm　64kg
③足立裕之（２年）
173cm　72kg
④海江田達観（１年）
180cm　66kg
⑤児玉英彦（１年）
181cm　65kg
⑥朝来靖志（１年）
175cm　70kg
⑦山地　悟（２年）主将
173cm　60kg
⑧和田和己（２年）
167cm　53kg
⑨朝生浩司（２年）
167cm　67kg
⑩山下和義（２年）
166cm　57kg
⑪橋本準二（２年）
164cm　62kg

◆緑が丘高校
＜福島県＞

○監督　安部信夫
○ＧＫ①芦沢美由起（２年）
164cm　58kg
⑫南舘あけみ（２年）
167cm　62kg
○ＦＰ②橋本紀美江（２年）
168cm　61kg
③五十嵐晴美（２年）
167cm　65kg
④朝倉栄子（２年）
163cm　58kg
⑤安藤祐美子（２年）
162cm　52kg
⑥阿部静香（２年）
160cm　55kg
⑦後藤香里（２年）主将
153cm　52kg
⑧中川秀子（２年）
159cm　57kg
⑨羽田まゆみ（２年）
156cm　56kg
⑩安西恵美（２年）
150cm　47kg
⑪結城幸子（１年）
160cm　52kg

◆聖和学園吉田高校
＜宮城県＞

○監督　森　順一
○ＧＫ①佐藤みゆき（２年）
163cm　58kg
⑫行方公江（１年）
172cm　54kg
○ＦＰ②鈴木朋江（２年）
162cm　55kg
③鈴木美幸（２年）主将
168cm　58kg
④中川幸子（２年）
164cm　54kg
⑤上村千春（２年）
159cm　56kg
⑥兎沢小百合（２年）
162cm　54kg
⑦千葉恵美（２年）
160cm　55kg
⑧佐藤美佳（２年）
159cm　55kg
⑨最上裕子（２年）
159cm　54kg
⑩斎藤順子（１年）
163cm　56kg
⑪今野利恵（１年）
162cm　55kg

◆県立浦添高校
＜沖縄県＞

○監督　儀間次男
○ＧＫ①奥間和紀（２年）
173cm　63kg
⑫新城達也（１年）
179cm　69kg
○ＦＰ②津波古義人（２年）
165cm　52kg
③西原秀彦（２年）
175cm　67kg
④島袋一郎（２年）
166cm　55kg
⑥松田好泰（１年）
173cm　65kg
⑥松田甚栄（１年）
178cm　66kg
⑦新城秀樹（１年）
173cm　60kg
⑧宮城吉晃（１年）
172cm　60kg
⑨粟国　隆（１年）
173cm　61kg
⑩由浅　太（１年）
177cm　66kg
⑪名護敏厚（１年）
178cm　65kg

## ◈佼成学園女子高校

＜東京都＞

○監督　加藤益弘
○ＧＫ①平野恵子（２年）主将
　158cm　53kg
　⑫梅沢夏子（２年）
　164cm　58kg
○ＦＰ②杉田理恵（２年）
　161cm　53kg
　③久保浩子（２年）
　164cm　58kg
　④松尾沢乃（２年）
　160cm　59kg
　⑤石谷聡枝（２年）
　159cm　48kg
　⑥市野百合子（２年）
　165cm　58kg
　⑦渡辺雅子（２年）
　154cm　49kg
　⑧長良めぐみ（１年）
　160cm　49kg
　⑨大場夕子（１年）
　158cm　53kg
　⑩細野和美（１年）
　160cm　53kg
　⑪北島奈津子（１年）
　160cm　58kg

## ◈県立吉井高校

＜群馬県＞

○監督　永井　正
○ＧＫ①大河原秀美（２年）
　165cm　57kg
　⑫遠藤すみ子（２年）
　161cm　56kg
○ＦＰ②江原材枝（２年）主将
　165cm　54kg
　③島崎純子（２年）
　170cm　59kg
　④野口雅代（２年）
　158cm　51kg
　⑤井上妙子（２年）
　160cm　59kg
　⑥春山真由美（１年）
　154cm　55kg
　⑦石井美恵子（２年）
　162cm　56kg
　⑧田中美由貴（２年）
　158cm　54kg
　⑨横尾利架（２年）
　164cm　56kg
　⑩小林喜代子（１年）
　160cm　58kg
　⑪武田久美（１年）
　156cm　57kg

## ◈県立栃木女子高校

＜栃木県＞

○監督　高橋　誠
○ＧＫ①吉田喜代美（２年）
　161cm　57kg
　⑫吉村佐和子（１年）
　167cm　59kg
○ＦＰ②縫田洋美（２年）
　168cm　57kg
　③佐山幸子（２年）主将
　164cm　61kg
　④塩谷恵美（２年）
　162cm　54kg
　⑤川合美智子（２年）
　160cm　56kg
　⑥五十畑初江（２年）
　158cm　54kg
　⑦相川貴子（１年）
　165cm　60kg
　⑧名塚直子（１年）
　161cm　53kg
　⑨中村美由紀（１年）
　160cm　57kg
　⑩渡辺裕美子（１年）
　159cm　52kg
　⑪福田洋子（１年）
　152cm　57kg

## ◈市邨学園高校

＜愛知県＞

○監督　縣　敏郎
○ＧＫ①酒巻阿樹子（２年）
　163cm　57kg
　⑫桑原章恵（１年）
　161cm　58kg
○ＦＰ②押水美千代（２年）
　166cm　55kg
　③堀田　恵（２年）
　159.5cm　54kg
　④木村美千枝（２年）
　154cm　47kg
　⑤安東知代（１年）
　158cm　48kg
　⑥坂倉ゆかり（１年）
　164cm　59kg
　⑦西尾多可（２年）
　153cm　48kg
　⑧景山三佳（２年）
　154cm　53kg
　⑨桜井由美子（１年）
　164.5cm　44kg
　⑩小島邦子（１年）
　168.5cm　65kg
　⑪梶田きよみ（２年）
　162cm　52kg

## ◈県立静岡城北高校

＜静岡県＞

○監督　川崎　弘
○ＧＫ①森かつ美（２年）
　160cm　60kg
　⑫尾焼津庸子（１年）
　171cm　70kg
○ＦＰ②加藤一美（２年）
　166cm　61kg
　③望月亜紀（２年）
　164cm　57kg
　④中川弘子（２年）
　164cm　56kg
　⑤伊藤由乃（２年）
　163cm　60kg
　⑥酒井さと子（２年）
　162cm　50kg
　⑦大村由美子（２年）主将
　155cm　57kg
　⑧増田美樹（２年）
　155cm　53kg
　⑨青島美也子（２年）
　158cm　56kg
　⑩山下みどり（１年）
　155cm　50kg
　⑪大金文子（１年）
　164cm　56kg

## ◈昭和学院高校

＜千葉県＞

○監督　笠原利宏
○ＧＫ①神尾美恵（１年）
　164cm　55kg
　⑫太古由起子（１年）
　160cm　49kg
○ＦＰ②星野富恵（２年）主将
　164cm　57kg
　③甲斐夕美子（１年）
　155cm　56kg
　④斉藤美和（１年）
　160cm　58kg
　⑤菅田美千子（１年）
　165cm　51kg
　⑥斉藤美智子（１年）
　161cm　46kg
　⑦三箇直子（２年）
　165cm　56kg
　⑧小松崎和恵（１年）
　168cm　51kg
　⑨須賀和恵（１年）
　160cm　55kg
　⑩滝口なつ代（２年）
　153cm　52kg
　⑪河本流音（１年）
　156cm　46kg

### ◆暁高校
＜三重県＞

○監督　平賀達也
○ＧＫ①矢田則子（１年）
167cm　55kg
⑫――
○ＦＰ②恩田美紀（２年）主将
157cm　57kg
③加藤聡子（２年）
161cm　57kg
④森崎ルミ（２年）
156cm　52kg
⑤水谷由香里（２年）
156cm　51kg
⑥堀内章美（１年）
163cm　58kg
⑦日沖智恵子（１年）
162cm　53kg
⑧三木朱美（１年）
163cm　55kg
⑨山本晶子（１年）
164cm　57kg
⑩荻須寛子（１年）
155cm　56kg
⑪森　訓子（１年）
155cm　54kg

### ◆県立三好高校
＜愛知県＞

○監督　平松　学
○ＧＫ①松藤初美（２年）主将
168cm　59kg
⑫戸松留美（１年）
166cm　60kg
○ＦＰ②岩城里美（２年）
156cm　55kg
③山岡洋子（２年）
163cm　60kg
④佐藤美香（２年）
161cm　53kg
⑤近藤美香（２年）
156cm　48kg
⑥松川聖子（２年）
164cm　58kg
⑦早川　香（２年）
160cm　55kg
⑧毛利美砂子（１年）
160cm　57kg
⑨橋本美智代（１年）
173cm　54kg
⑩都築美奈子（１年）
154cm　55kg
⑪道洞美里（１年）
164cm　57kg

### ◆名古屋短期大学付属高校
＜愛知県＞

○監督　宮崎　昭
○ＧＫ①小畠千明（２年）
168cm　52kg
⑫石川尚美（１年）
161cm　62kg
○ＦＰ②渡辺りつ子（２年）
163cm　54kg
③稲垣友美（２年）
163cm　48kg
④高瀬真由美（２年）
162cm　52kg
⑤長谷川蔦子（２年）
169cm　57kg
⑥成田知美（２年）
157cm　50kg
⑦御厩敷　恵（２年）
167cm　62kg
⑧筒井千智（２年）
165cm　57kg
⑨城　雅美（１年）
160cm　50kg
⑩奥村隆子（１年）
155cm　51kg
⑪高橋友美子（１年）
164cm　53kg

### ◆県立彦根西高校
＜滋賀県＞

○監督　中村喜美夫
○ＧＫ①田島明美（２年）
160cm　54kg
⑫河地明美（１年）
164cm　53kg
○ＦＰ②久保田美香（２年）主将
163cm　59kg
③谷口明美（２年）
160cm　54kg
④浜野和美（２年）
161cm　61kg
⑤奥山朝美（２年）
157cm　49kg
⑥小幡紀子（２年）
161cm　51kg
⑦吉田菜穂美（１年）
161cm　52kg
⑧広瀬始代（１年）
162cm　50kg
⑨西河貞子（１年）
165cm　60kg
⑩小椋美香（１年）
162cm　53kg
⑪川口紀子（２年）
161cm　50kg

### ◆仁愛女子高校
＜福井県＞

○監督　松岡良朔
○ＧＫ①海道紀世（２年）
169cm　61kg
⑫冨田喜久（１年）
164cm　50kg
○ＦＰ②石本順子（２年）
163cm　54kg
③片岡佳子（１年）
159cm　49kg
④川浪佳子（２年）
157cm　49kg
⑤藤川美紀（１年）
150cm　51kg
⑥山崎園恵（２年）
162cm　58kg
⑦谷川静江（２年）
163cm　57kg
⑧菅生純代（２年）
163cm　55kg
⑨石田律子（１年）
164cm　58kg
⑩吉川京子（２年）
168cm　63kg
⑪大角珠生（２年）主将
168cm　56kg

### ◆小松市立女子高校
＜石川県＞

○監督　谷口俊春
○ＧＫ①柴田和美（１年）
168cm　54kg
⑫大間真理子（１年）
164cm　56kg
○ＦＰ②宮野恵子（１年）
166cm　57kg
③和田陽子（１年）
166cm　54kg
④丹後早苗（１年）
163cm　52kg
⑤小幡秀子（２年）
163cm　56kg
⑥米田優佳里（１年）
160cm　50kg
⑦松下優記子（２年）
160cm　52kg
⑧中嶋恵美子（２年）主将
150cm　48kg
⑨林　智恵子（２年）
154cm　47kg
⑩福田なおみ（１年）
156cm　50kg
⑪竹田美紀（１年）
160cm　52kg

### ◈県立紛河高校
<和歌山>

○監督　笹井博隆
○ＧＫ①小深田由紀子（２年）
172cm　57kg
⑫田村泰子（１年）
168cm　57kg
○ＦＰ②富谷佳世子（２年）主将
162cm　48kg
③森下敬子（２年）
170cm　55kg
④辻本裕子（２年）
158cm　52kg
⑤大畑小百合（２年）
157cm　47kg
⑥岡山好未（２年）
166cm　57kg
⑦安藤千賀（２年）
153cm　51kg
⑧谷端孝代（２年）
154cm　49kg
⑨青田めぐみ（１年）
163cm　54kg
⑩石本悦子（１年）
163cm　58kg
⑪森下佳津（１年）
166cm　56kg

### ◈四天王寺高校
<大阪府>

○監督　繁田順子
○ＧＫ①加藤陽子（２年）
169cm　58kg
⑫西田和代（２年）
165cm　60kg
○ＦＰ②柳川葉子（２年）主将
166cm　58kg
③浦野美代子（２年）
164cm　55kg
④村山智栄（２年）
162cm　50kg
⑤谷上康代（１年）
159cm　51kg
⑥坂東愛子（１年）
162cm　57kg
⑦福家由紀（１年）
150cm　48kg
⑧藤井美香（１年）
158cm　52kg
⑨藤原由香（１年）
156cm　55kg
⑩村上ひとみ（１年）
160cm　54kg
⑪和気加代子（１年）
162cm　50kg

### ◈府立東宇治高校
<京都府>

○監督　西沢金作
○ＧＫ①河合陽子（２年）
162cm　57kg
⑫大味祥恵（１年）
162cm　61kg
○ＦＰ②谷口千春（１年）
169cm　59kg
③森　晴代（１年）
150cm　46kg
④原　久美子（２年）主将
154cm　53kg
⑤中尾香代（２年）
164cm　54kg
⑥玉木万美子（１年）
157cm　52kg
⑦富岡美圭（１年）
157cm　47kg
⑧吉田恵子（１年）
153cm　46kg
⑨安川清子（１年）
155cm　42kg
⑩本田和美（１年）
150cm　48kg
⑪――

### ◈県立高松高校
<香川県>

○監督　山川明徳
○ＧＫ①吉田絵美（１年）
161cm　51kg
⑫日下弥希子（２年）
163cm　57kg
○ＦＰ②木太あゆみ（１年）
155cm　47kg
③友沢実千代（１年）
155cm　51kg
④河野直子（１年）
161cm　49kg
⑤山本和代（１年）
158cm　55kg
⑥上枝美華（１年）
162cm　53kg
⑦森本香織（１年）
154cm　50kg
⑧河野朋子（２年）
163cm　55kg
⑨日下珠美（２年）
162cm　56kg
⑩松岡令子（２年）主将
158cm　57kg
⑪石津知子（２年）
162cm　56kg

### ◈県立岩国商業高校
<山口県>

○監督　佐倉弘之甫
○ＧＫ①宇佐川千春（２年）
170cm　55.8kg
⑫松井加津子（２年）
159cm　60.8kg
○ＦＰ②伊藤なおみ（２年）
169cm　55.2kg
③横田尚子（２年）主将
161cm　59.2kg
④西村昌美（２年）
158cm　53.9kg
⑤東　照子（２年）
157cm　54.6kg
⑥角　典子（２年）
159cm　51.2kg
⑦谷　のりえ（２年）
153cm　49.9kg
⑧作本由香里（２年）
157cm　47.2kg
⑨森本久美子（２年）
155cm　52.6kg
⑩鳥岡久恵（２年）
154cm　48.8kg
⑪宮部都美江（１年）
163cm　53.8kg

### ◈山陽女子高校
<広島県>

○監督　片岡賢司
○ＧＫ①山口妙美（２年）
168cm　60kg
⑫笑追弓月（１年）
163cm　51kg
○ＦＰ②中嶋華江子（２年）主将
158cm　55kg
③佐々木浩子（２年）
163cm　57kg
④石田真由美（２年）
160cm　56kg
⑤山崎由香（２年）
169cm　62kg
⑥池田能子（１年）
163cm　55kg
⑦沖田奈苗（２年）
157cm　47kg
⑧大林恵子（１年）
156cm　54kg
⑨相川克子（１年）
160cm　55kg
⑩本西尚子（１年）
161cm　56kg
⑪川本恵子（１年）
159cm　54kg

## 事務局からのお知らせ

| 日程 | 内容 |
|---|---|
| 2月27日〜3月6日 | 関西学生ハンドボール　第2回ヨーロッパ遠征 |
| 3月22日〜4月4日 | 関東ジュニアハンドボール研修　西独遠征 |
| 3月8日 | 全日本男子チーム　ヨーロッパ遠征帰国 |
| 3月19日 | 定例常務理事会 |
| 3月21日〜3月31日 | 第11回日韓社会人女子ハンドボール　交流日本各地 |
| 3月24日〜3月28日 | 昭和57年全国高校選抜大会　＜愛知県体育館＞ |
| 3月28日〜3月30日 | 第6回日本レフェリーコース |
| 3月31日〜4月4日 | アジア招待大会＜ホンコン＞　本田洋監督全日本ジュニアチーム参加 |

### ◙県立神埼農業高校

＜佐賀県＞

○監督　甲斐忠義
○ＧＫ①早田昌江（２年）
164cm　55kg
⑫大坪豊子（１年）
164cm　55kg
○ＦＰ②太田さつき（２年）
162cm　53kg
③高木るみ子（２年）
160cm　55kg
④山口由美子（２年）
160cm　47kg
⑤香月佐多子（２年）
158cm　53kg
⑥迎　順子（２年）
158cm　47kg
⑦田中京子（２年）
158cm　56kg
⑧内田　歩（２年）
159cm　53kg
⑨重松照美（２年）
152cm　54kg
⑩小野昭子（２年）
164cm　55kg
⑪石丸智子（２年）
158cm　53kg

### ◙県立今治北高校

＜愛媛県＞

○監督　柳原　勉
○ＧＫ①倉橋容子（２年）
163cm　50kg
⑫岩井美佐（１年）
165cm　60kg
○ＦＰ②藤岡美江（２年）主将
163cm　54kg
③鍵田範子（２年）
156cm　52kg
④越智睦美（２年）
163cm　55kg
⑤野間富子（２年）
160cm　53kg
⑥伊藤幸子（２年）
164cm　58kg
⑦近藤幸江（２年）
158cm　52kg
⑧近藤潤子（２年）
157cm　57kg
⑨越智淑恵（２年）
164cm　58kg
⑩藤原静江（２年）
155cm　52kg
⑪塚元好美（１年）
160cm　52kg

### ◙県立読谷高校

＜沖縄県＞

○監督　新里泰一
○ＧＫ①砂辺ルリ子（２年）
161cm　55kg
⑫小渡則子（１年）
162cm　62kg
○ＦＰ②山入端玲子（２年）
161cm　58kg
③上地康子（２年）
162cm　49kg
④當山いづみ（２年）
153cm　49kg
⑤当山輝美（２年）
149cm　50kg
⑥新垣寿栄子（２年）主将
154cm　50kg
⑦池原繁美（２年）
149cm　45kg
⑧松田みゆき（１年）
150cm　46kg
⑨濱元智恵（２年）
154cm　44kg
⑩金城好江（１年）
159cm　55kg
⑪新垣清美（１年）
160cm　53kg

### ◙県立国分実業高校

＜鹿児島県＞

○監督　鶴丸勇美
○ＧＫ①阿多石文子（２年）主将
162cm　55kg
⑫米平幸恵（１年）
160cm　60kg
○ＦＰ②斜木由美子（２年）
154cm　53kg
③古川美穂（２年）
149cm　48kg
④芝　美佐子（２年）
158cm　56kg
⑤久木田ゆかり（２年）
161cm　55kg
⑥図師政代（２年）
163cm　55kg
⑦室屋誠子（２年）
158cm　55kg
⑧宮原久美子（２年）
158cm　56kg
⑨末永輝美（１年）
166cm　62kg
⑩古賀恵子（１年）
167cm　58kg
⑪斜木千代美（１年）
149cm　45kg

編集委員会特別企画・中・高校指導者の意見

# 史上初・全国中学大会
# 男女初優勝をふり返って

石川県芦城中学監督

西田　啓



## 全国中学大会優勝まで

60年インターハイ・石川開催を3年後に控えた現在、その主力となる中学3年生をいかに強化するかが、われわれの課題であった。昨年の優勝は、その意味からも大変意義深く思われ、彼等にインターハイに向かって、さらに大きな飛躍を期待したい。

また、われわれにとっても、指導する以上勝ちたいのは当然だが、毎日の学校教育で忙しい今日、一日一日をただ精一杯やることしか出来ない現状だった。にもかかわらず、男女史上初の全国優勝は、現実とは思えない出来事であった。うれしいのは当然だが、反面、これからを考えると不安で、身の引き締まる思いだ。

思えばハンドボールを指導して14年。「全国優勝」の四文字を合い言葉に、生徒と共にひたすら来る日も来る日も練習に励んだ。長いようでもあり、実に短かった14年。その中に喜びも、苦しみもあった。

前任校の御幸中での5年は、まだ若く、生徒と共に真っ暗になるまでボールを追い続けた。しかし、まだ未熟で、県優勝までにとどまり、ブロックの壁を破れず、全国大会出場を果たすまでに至らなかった。現在の芦城中へ転勤して、練習は再び原点から出発した。男女の指導については、初めてであり、当初は当惑する事も多かった。まず男子から鍛え始め、念願の全国大会へ出場できたのは4年目の事だった。

その頃から、女子の指導についても本格的にとりくみ始め、夏休みには、午前中は女子、午後は男子と丸一日基本練習を繰り返す等、炎天の下でよく頑張った。苦しかった反面、なつかしい思い出の一コマでもある。

全国大会へ出場するにつれ、名門校の監督とも知り合い、あとあと親しく交際する間柄となった。指導面に限らず、監督としての心の広さにも敬服させられ、大きな収穫だった。ハンドボールの指導者である以前に、教育者として、また、人間として考えさせられる一面もあり、自分自身、その後の指針となった。

男女共強くなるにつれ、大きな大会でのここ一番での「勝負」の不安がつのり始めた。男女一人の指導のもとでは、所詮は、県レベルまでの優勝に限られ、それ以上の大会では、両方とも勝つのは、大変難しいという結論に達した。事実、一昨年は、県レベルまで男女優勝を成し得たが、ブロックで男女共2位に甘んじた。

この時、肉体的にも精神的にも限界を知り、疲労は極限に達した。男子はともかく権利を得たが、女子は一県一チームの規約のため、2年連続全国大会出場はならなかった。「二兎を追う者は、一兎をも得ず」その教訓から、両チームをさらに強くするために、女子を寺先生に預

---

今月号より編集委員会からお願いして、全国の中、高校を中心とした指導者の方々に、その指導理念と練習内容を紹介していただくことに致しました。

第1回の今月は、昨年の全国中学校大会で史上初の男女優勝という快挙を成し遂げた石川県の芦城中学校の指導者・西田啓先生にお願い致しました。優勝までの道のり、その指導理念は、全国の指導者の方々にとってきっと参考になることと思います。西田先生には、お忙しい中寄稿いただき有難とうございました。今後お願いする先生方はよろしくお願いします。また、指導者の方々、選手の方々でお読みになっての感想などございましたら、是非お寄せ下さい。

け、私は男子に全精力を注いだ。

ともかく昨年の勝利は、この一昨年の辛い体験のもとに、われわれにも生徒にもおおいに「肥やし」となったと言えよう。そしてそれは、史上初の男女優勝という形で実を結び、われわれの生涯にかけがえのない大きな財産を持たらした。

厳しい練習によく耐えぬいた選手諸君や、陰で暖かく見守ってくれた父母、また、胸を貸してくれたOB、OG達、指導して下さった先輩の方々に、深く敬意を表わし感謝したい。

## 「チームづくりのねらい」

現在、私の最も理想とするのは、全員がコートをフルに走る、スピーディなハンドボールである。誰もがアシストし、誰もがポイントを得られるような「全員ハンド」をテーマにチームづくりに当っている。

当初は、大砲主体の上から打つハンドボールを優先させていたが、試合に確実性がなく、ゲームの流れも不安定になりがちなので、最近は、走るハンドボールへと切り替えている。しかし、大きな選手が何人か集まれば、それにこしたことはないが、最近の中学校の部活動では、どちらかと言えば人気のある野球、バスケットボール等に人材が流れがちである。

そのため、よほど選手に恵まれた年なら別だが、大低の場合、大型の選手は集まりにくい。

その結果、私の場合、特定の選手に頼ることなく、全員の力で走ってたたかうチームづくりになってしまう。



走力をアップすることにより、守りは強く安定し、速攻からの得点も多くなる。また、セットでも、全員が鋭く、スピーディに絶えまなく走れば、いつかはノーマークが生まれる。

〝脚力にスランプはない〟と思われる。このように〝スピーディな全員ハンド〟を目ざす以上、毎日の練習はランニングで始まり、ランニングに終わると言ってもよい。

ハードで走りづくめの練習は、まず「耐えること」より始まっている。夏は炎天の下で、汗と油にまみれて行なわれ、冬は極寒の下で風邪とたたかいながら行なわれ、体力の消耗も著しい。

毎日の練習で強調することは「忍耐と努力」であり、これが自然と部のモットーとなった。また、一日一日の練習を試合と心得、基本的な一つ一つのプレーをより真剣にとりくむよう努力している。

一本のパスやシュートを、より速くより確実にすることが、一番大切であり、練習の本来の意味はそこにあると思われる。

基本中の基本が、いかに大切かを身を持って体験したことも何度かある。

生徒は約2年半の部活動の中で、時には怪我につきまとわれ、また、ある時は壁にぶつかって悩んだりすることもある。

その中で、一人一人が〝我慢〟を覚え、〝自己の役割〟を知りながら成長してゆく。

チームワークは、この苦しみの中から生まれると思われる。

現在、中学生時代は、ともすればまちがい易い傾向にある。身心の不調和な発達や、社会の悪化から、曲がりくねりながら育っていく事も多い。

学習と部活動との両立、そしてその根本となる生活面の指導は、特に難しい。

義務教育の観点からは、試行錯誤を繰り返しながらも、たくましく成長させたいものである。

ハンドボール競技を通して、私は生徒を健全に育成し、人生において耐え、努力していく姿勢を身につけさせたい。

## ＜年間のスケジュールについて＞

### (1) 毎日の練習について

毎日の練習では、2～3時間を徹底している。晴天の時は、グラウンドのコート二面で、男女別に練習するが、雨天時の場合は体育館で行ない、男女合同の練習形態をとっている。本校の体育館の使用は過密になっており、近くの市の体育館を利用することが多い。

トレーニングになることも多く、雨さえあがれば、学校のまわりのロードワークに切り替える等、走力の確保につとめている。土、日曜日には、近くの小松市立女子高をはじめ、小松高、小松工業、小松商業などの各高校へ出かけ、合同練習や試合などで胸を借りている。谷口先生をはじめ、諸先生方に大変お世話になる等、環境的にも恵まれている。

練習内容については、独自の練習に、いろいろなチームの利点を加える等改良し、工夫している。特に最近では、オールコートを使った練習形態を多くしている。

オールコートでの三対三や四対四、六対六等で走力をつけ、練習そのものを、より試合に近づけるよう努力している。

### (2) 合宿について

合宿は、年3回を恒例として行なっている。1月の3日～6日までの正月合宿、7月のブロック予選前の合宿、8月の全国大会前の合宿がそれぞれである。

1月の合宿では、基本やチームづくりそのものを見直し、チームの特徴を方向づけるよう努力する。

大学生や社会人のOBは、休みに入いると真っ先にかけつけ、親身になって後輩を指導してくれる。彼等の実践で得た経験は、後輩にとっても新鮮で、大きな魅力となっている。この1月の合宿で、チームの骨格がうまくできれば、その年のチームづくりがうまく行く。



合宿は、大雪になった事もあり、食事当番に学校へ通われるお母さん方には、正月早々御迷惑のかけっぱなしである。そういった父母の協力体制がしっかりしている点が大変心強い。6日の打ちあげの時は、3年生と昼食を兼ねて、新年会を行なう等、楽しい一面もある。寒い時期でもあり、体育館での練習を中心に行なっているものの、天候不順の北陸では、寒暖の差も大きく、健康管理の面で大変気をつかうことも多い。

毎年1月下旬より2月上旬にかけて、集団風邪の流行するシーズンでもあり、風邪対策に悩まされるのが常となっている。

ブロック予選前の合宿では、対戦チームを研究し、戦法を立て練習する。

特に女子は、過去3年連続同県チームで決勝を争っており、精神面の強化がより重要になる。互に手のうちを知り尽くしているだけに、本当に厳しい。

一昨年、昨年共に女子の勝ち負けが、あとに続いて行なわれる男子決勝に、ムードの上からも大きく作用することもあり、不安である。一昨年の場合、両方共2位となり、本当に苦い思いをした。決して油断できない合宿で、また、調整の仕方に気をつかうことも多い。

全国大会前の合宿では、参加権を得た事で、精神的にはかえって気持ちが楽である。全国大会ではリラックスさせ、伸び伸びとプレーさせたいと思っている。

男子は、高校生との練習試合で実戦中心になるが、女子は合同練習で胸を借りる等、基本の徹底に心がけている。

OBも特訓にかけつけ、夜遅くまで現役当時の失敗談や思い出話しに花を咲かせる等、後輩にとっておおいに勉強になり、また、大会前のリラックスの一助にもなっている。

最後の調整でもあり、特に疲労がたまったり、怪我をしないよう選手の健康管理に気を使っている。

遠征合宿については、3年前より少しずつ取り入れ、最近では、11月、3月、5月の連休を利用して行なっている。特に春休みの3月が主体で、男子は東京、愛知大阪等を中心に連戦する。

女子は体力上、愛知方面までを原則として行なっている。

全国的視野を広めると共に、数多くのカラーの違ったチームと対戦することによって、技術の強化を図ることを目的としている。

多摩中の青木先生が、前任校の拝島中を優勝に導かれたのを参考に、私も強化の一つの手段として、取り入れている。全国各地を連戦しながら、一人一人の役割りを再点検し、欠陥を修正できるのが特徴である。

相手チームから学ぶ点も多く、本当に勉強になる。

そのような中で、一人一人のプレーがより速く、より確実に、よりうまくなっていく。したがって、短期間にチームワークが向上する。

ただ注意を要するのは、勝てば自信となるが、負ければプレッシャーが残り、あとあとチームの立て直しに苦労する。

その意味では、遠征前にはかなりチーム力がレベルアップしていないと危険である。チーム力の低下している時は、むしろ遠征せず、じっくりとチームの力がそなわるまで待つ方が望ましいと思われる。

もう一つ気をつかう点は、遠征費もかなりかかり、一人一人の負担も大きくなるので、保護者のバックアップなしではできない。

父母の会等を開き、十分な理解を得なければならないし、ある程度の実績がないと計画しにくい。最近では、親の支援も強く、やりやすくなり、ありがたいと思っている。

中学生時代は、大会も高校生に比べるとかなり少なく、新人大会から春の大会までの期間も長く、毎日の単調な練習だけでは、マンネリ化しがちになる。合宿や遠征等で、生徒に次々と目標を変え、興味を与えるよう工夫することも大切だと思う。

私の場合、現在このような練習方法をとっているが、まだまだ未熟者で、わからない点や迷っている事も沢山ある。実力のある多くの先生方の指導法や御意見を参考に、常に新しい気持ちで練習にとりくみたいと思っている。

# 第14回全日本実業団男子トーナメント大会

## 延長の末トヨタ自動車が制す

2月11日～13日　上尾運動公園体育館・上尾市民体育館

▽1回戦

**三景（東京）20（12－6, 8－8）14 豊田自動織機（愛知）**

| 得 | 【豊田自】 | | 【三景】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 永井 | GK | 野田 | 0 |
| 1 | 黒柳 | FP | 犬飼 | 3 |
| 7 | 古田 | | 中馬 | 0 |
| 0 | 諫山 | | 地主園 | 1 |
| 0 | 内田 | | 白倉 | 0 |
| 0 | 安田 | | 奥村 | 2 |
| 0 | 大城勝 | | 加藤 | 3 |
| 0 | 新田 | | 藤山 | 2 |
| 4 | 大城宏 | | 飯塚 | 0 |
| 0 | 池田 | | 近藤 | 8 |
| 2 | 加古 | | 山田 | 1 |
| 14 | (6) | PT | (2) | 20 |

（審・仲尾、小川）

**出光千葉（千葉）25（10－6, 15－11）17 日本石油（山口）**

| 得 | 【日石】 | | 【出光】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 仁井 | GK | 久村 | 0 |
| | | | 池田 | 0 |
| 0 | 古迫 | FP | 千葉 | 3 |
| 6 | 松本 | | 保原 | 1 |
| 6 | 池 | | 田中 | 0 |
| 0 | 福永 | | 大島 | 0 |
| 0 | 松嶋 | | 浅海 | 1 |
| 0 | 大木 | | 佐々木 | 0 |
| 3 | 北村 | | 永石 | 4 |
| 2 | 綱本 | | 清村 | 6 |
| 0 | 田村 | | 佐々木 | 0 |
| | | | 鶴岡 | 10 |
| 17 | (2) | PT | (3) | 25 |

（審・手塚、渡辺）

**新日鉄大分（大分）20（10－8, 10－8）16 本田技研爽風会（三重）**

| 得 | 【爽風会】 | | 【大分】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 三宅 | GK | 藤沢 | 0 |
| 0 | 松下 | | 財満 | 0 |
| 5 | 山本 | FP | 岡村 | 4 |
| 2 | 山田 | | 足立 | 0 |
| 3 | 小川 | | 吉田 | 1 |
| 6 | 柳沢 | | 安部 | 0 |
| 1 | 清水 | | 南 | 7 |
| 0 | 船谷 | | 麻生 | 1 |
| 3 | 平子 | | 房前 | 3 |
| | | | 牧 | 0 |
| 20 | (0) | PT | (1) | 16 |

（審・島田、羽田）

**金沢市役所（石川）32（17－11, 15－11）22 丸善石油下津（和歌山）**

| 得 | 【丸善下】 | | 【金沢】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 海端 | GK | 竹中 | 0 |
| 0 | 谷口 | | 藤井 | 0 |
| 3 | 善岡 | FP | 金森 | 1 |
| 4 | 塩崎 | | 橋本 | 10 |
| 2 | 金谷 | | 中納 | 2 |
| 2 | 山本 | | 中村 | 4 |
| 0 | 楠山 | | 西田 | 7 |
| 4 | 中崎 | | 西森 | 0 |
| 1 | 松本 | | 北野 | 2 |
| 1 | 辻井 | | 平木 | 0 |
| 5 | 北畑 | | 石野 | 0 |
| 0 | 小川 | | 池村 | 6 |
| 22 | (0) | PT | (6) | 32 |

（審・小川、仲尾）

**丸善石油松山（愛媛）24（13－7, 11－6）13 日本発条（神奈川）**

| 得 | 【日発】 | | 【丸善松】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 清水 | GK | 塩田 | 0 |
| 1 | 石塚 | FP | 石川 | 2 |
| 3 | 井上 | | 岡部 | 2 |
| 2 | 及川 | | 谷 | 0 |
| 0 | 舛屋 | | 小笠原 | 5 |
| 6 | 関 | | 木村 | 0 |
| 0 | 佐々木 | | 伊藤 | 5 |
| 1 | 飯田 | | 佐々木 | 0 |
| 0 | 藤野 | | 北谷 | 4 |
| 0 | 高村 | | 神野 | 6 |
| | | | 吉村 | 0 |
| 13 | (1) | PT | (1) | 24 |

（審・手塚、渡辺）

**日鉄建材（大阪）26（9－5, 17－10）15 豊田合成（愛知）**

| 得 | 【豊田合】 | | 【日鉄】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 宇佐美 | GK | 川上 | 0 |
| 0 | 梅村 | | 岩嶋 | 0 |
| 6 | 太田 | FP | 若本 | 4 |
| 1 | 花井 | | 素原 | 1 |
| 0 | 渡辺 | | 清原 | 3 |
| 1 | 畠中 | | 池辺 | 3 |
| 4 | 上條 | | 古川 | 2 |
| 0 | 須原 | | 外山 | 1 |
| 0 | 小島 | | 山口 | 7 |
| 1 | 小林 | | 杉本 | 4 |
| 2 | 有竹 | | 霜村 | 0 |
| 0 | 横山 | | 中山 | 1 |
| 15 | (2) | PT | (2) | 26 |

（審・島田、羽田）

**日本原子力研究所（茨城）28（15－10, 13－15）25 自衛隊北熊本（熊本）**

| 得 | 【自衛熊】 | | 【原研】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 藤原 | GK | 佐藤 | 0 |
| 0 | 森口 | | | |
| 0 | 高木 | FP | 菊地 | 5 |
| 1 | 重吉 | | 大友 | 3 |
| 0 | 池沢 | | 田上 | 3 |
| 0 | 楠田 | | 大村 | 6 |
| 1 | 坂本 | | 秋山 | 10 |
| 8 | 三輪 | | 相沢 | 0 |
| 1 | 南里 | | 安達 | 0 |
| 8 | 杉本 | | 砂押 | 0 |
| 5 | 牧田 | | 荻原 | 0 |
| 1 | 吉長 | | 宮本 | 1 |
| 25 | (2) | PT | (2) | 28 |

（審・上久保、北井）

**新日鉄名古屋（愛知）24（9－7, 15－10）17 日産石油千葉（千葉）**

| 得 | 【日産】 | | 【名古屋】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 酒井 | GK | 岩上 | 0 |
| 0 | 松崎 | | 服部 | 0 |
| 0 | 板東 | FP | 伊藤 | 4 |
| 0 | 峯下 | | 阿久根 | 1 |
| 4 | 上田 | | 不破 | 3 |
| 3 | 神山 | | 蟹江 | 3 |
| 0 | 錦見 | | 平野 | 5 |
| 5 | 鈴木 | | 戸次 | 0 |
| 0 | 渡辺 | | 上之薗 | 3 |
| 5 | 蓑毛 | | 渡辺 | 0 |
| 0 | 阿部 | | 大島 | 5 |
| 0 | 毛呂 | | | |
| 17 | (2) | PT | (4) | 24 |

（審・中山、大出）

**本田技研熊本（熊本）30（13－13, 17－9）22 東京重機（東京）**

| 得 | 【重機】 | | 【本田熊】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 衣笠 | GK | 岩本 | 1 |
| 0 | 吉田 | | 森 | 0 |
| 0 | 卯野 | FP | 田上 | 5 |
| 2 | 千葉 | | 斉所 | 4 |
| 5 | 佐藤 | | 入江 | 0 |
| 2 | 雨宮 | | 松永 | 4 |
| 0 | 福地 | | 岩永 | 2 |
| 5 | 古屋敷 | | 岡崎 | 0 |
| 7 | 鷹野 | | 佐伯 | 13 |
| 1 | 阿部 | | 中村 | 1 |
| 0 | 高橋 | | 鯖江 | 0 |
| 0 | 奥山 | | | |
| 22 | (5) | PT | (4) | 30 |

（審・広澤、山田）

**大阪ガス（大阪）25（12－4, 13－11）15 興亜石油（山口）**

| 得 | 【興亜】 | | 【大阪ガ】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 松本 | GK | 森 | 0 |
| | | | 福田 | 0 |
| 0 | 山川 | FP | 奥野 | 6 |
| 4 | 藤田 | | 岩本 | 7 |
| 1 | 中本 | | 竹志 | 2 |
| 0 | 長野 | | 藤井 | 2 |
| 2 | 松本達 | | 竹内 | 1 |
| 3 | 高林 | | 藤田 | 3 |
| 2 | 松本治 | | 新家谷 | 0 |
| 1 | 中村 | | 高津 | 0 |
| 2 | 重田 | | 中村 | 4 |
| 0 | 陳野 | | 山崎 | 0 |
| 15 | (2) | PT | (3) | 25 |

（審・中山、大出）

**三井石油化学（千葉）27（12－4, 15－10）14 北陸電力（福井）**

| 得 | 【北電】 | | 【三井】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 岩城 | GK | 渡辺 | 0 |
| 0 | 原田 | | 杉弘 | 0 |
| 0 | 下村 | FP | 田中 | 5 |
| 0 | 小原 | | 佐藤 | 0 |
| 1 | 稲木 | | 森重 | 10 |
| 5 | 土本 | | 村井 | 3 |
| 2 | 加藤 | | 相田 | 4 |
| 4 | 吉田 | | 中村 | 4 |
| 0 | 宮崎 | | 三村 | 1 |
| 2 | 稲崎 | | 岡村 | 0 |
| | | | 西本 | 0 |
| 14 | (1) | PT | (5) | 27 |

（審・広澤、山田）

**武田薬品光（山口）28（10－6, 18－8）14 日進商会（神奈川）**

| 得 | 【日進】 | | 【武田】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 高良 | GK | 清水 | 0 |
| 0 | 小坂 | | | |
| 0 | 村田 | FP | 長棟 | 3 |
| 0 | 出口 | | 西野 | 8 |
| 0 | 夏目 | | 杉山 | 3 |
| 0 | 古谷 | | 末長 | 8 |
| 0 | 芹沢 | | 吉田 | 0 |
| 7 | 高柳 | | 三宮 | 2 |
| 0 | 小田 | | 酒井 | 1 |
| 6 | 比嘉 | | 小川 | 3 |
| 1 | 岡田 | | 川本 | 0 |
| 14 | (0) | PT | (5) | 28 |

（審・結城、金子）

**セントラル自動車（神奈川）21（11－6, 10－5）11 サンケミカル（岐阜）**

| 得 | 【サン】 | | 【セ自】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 堀田 | GK | 吉田 | 0 |
| | | | 佐藤 | 0 |
| 3 | 時田 | FP | 日野 | 2 |
| 0 | 日下 | | 小野 | 1 |
| 0 | 大橋 | | 嶋 | 3 |
| 5 | 堀 | | 海老原 | 2 |
| 1 | 倉田 | | 阿部 | 2 |
| 2 | 尾崎 | | 谷中 | 6 |
| 0 | 足立 | | 川崎 | 1 |
| | | | 尾形 | 3 |
| | | | 日吉 | 0 |
| | | | 茂垣 | 1 |
| 11 | (2) | PT | (4) | 21 |

（審・町田、浅川）

白衛隊呉（広島）25（16－5 9－8）13 丸善石油千葉（千葉）

| 得 | 【丸善千】 | | 【白衛呉】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 福本 | GK | 阪井 | 0 |
| | | GK | 須甕 | 0 |
| 1 | 松本 | FP | 岩山 | 0 |
| 3 | 篠原 | FP | 寿賀 | 3 |
| 6 | 川端 | FP | 安楽 | 2 |
| 0 | 八木 | FP | 和田 | 0 |
| 0 | 松井 | FP | 西川 | 6 |
| 0 | 谷 | FP | 岡田 | 0 |
| 2 | 昆野 | FP | 池田 | 8 |
| 1 | 高橋 | FP | 村岡 | 0 |
| 0 | 寒沢 | FP | 利光昭 | 6 |
| | | FP | 利光博 | 0 |

（審・金子・結城）

13（1） PT （2）25

神戸製鋼所（兵庫）22（11－6 11－3）9 日本鋼管福山（広島）

| 得 | 【日鋼】 | | 【神戸】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 瀬良 | GK | 大谷 | 0 |
| 1 | 村田 | FP | 江口 | 5 |
| 1 | 岡崎 | FP | 須藤 | 1 |
| 1 | 辺見 | FP | 中尾 | 1 |
| 0 | 篠井 | FP | 藤谷 | 2 |
| 4 | 金井 | FP | 河内 | 2 |
| 1 | 西郷 | FP | 山崎 | 9 |
| 1 | 井上 | FP | 新家 | 2 |
| 0 | 本田 | FP | | |
| 0 | 林 | FP | | |

（審・町田・浅川）

9（1） PT （4）22

トヨタ自動車（愛知）28（14－10 14－6）16 住友金属（和歌山）

| 得 | 【住友】 | | 【トヨタ】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 相坂 | GK | 玉津 | 0 |
| 0 | 中西 | GK | 中西 | 1 |
| 0 | 松下 | FP | 広田 | 1 |
| 0 | 新家 | FP | 高木 | 2 |
| 3 | 田中啓 | FP | 相本 | 7 |
| 3 | 山崎 | FP | 近藤 | 1 |
| 6 | 河野 | FP | 鈴木 | 0 |
| 3 | 池田 | FP | 川田 | 6 |
| 1 | 西岡 | FP | 香井 | 8 |
| 0 | 田中秀 | FP | 久本 | 0 |
| | | FP | 松永 | 2 |

（審・上久保・北井）

16（3） PT （3）28

▽2回戦

三景 32（14－6 18－6）12 出光千葉

| 得 | 【出光】 | | 【三景】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 久村 | GK | 野田 | 0 |
| 0 | 池川 | GK | | |
| 2 | 千葉 | FP | 犬飼 | 11 |
| 0 | 保原 | FP | 中馬 | 1 |
| 0 | 田中 | FP | 地主園 | 2 |
| 3 | 浅海 | FP | 白倉 | 0 |
| 1 | 永石 | FP | 奥村 | 1 |
| 3 | 清村 | FP | 加藤 | 3 |
| 0 | 佐々木 | FP | 藤山 | 4 |
| 3 | 鶴岡 | FP | 飯塚 | 2 |
| | | FP | 近藤 | 6 |
| | | FP | 山田 | 2 |

（審・手塚・渡辺）

12（2） PT （5）32

本田技研爽風会 26（16－7 8－9）16 金沢市役所

| 得 | 【金沢】 | | 【爽風会】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 竹中 | GK | 三宅 | 0 |
| 0 | 藤井 | GK | 松下 | 0 |
| 2 | 池村 | FP | 山本 | 6 |
| 1 | 金森 | FP | 山田 | 1 |
| 0 | 水野 | FP | 小川 | 2 |
| 4 | 橋本 | FP | 柳沢 | 5 |
| 0 | 中納 | FP | 清水 | 3 |
| 2 | 中村 | FP | 船谷 | 0 |
| 6 | 西田 | FP | 平子 | 9 |
| 0 | 西森 | FP | | |
| 1 | 北野 | FP | | |
| 0 | 石野 | FP | | |

（審・中山・大出）

16（1） PT （5）26

日鉄建材 23（10－12 13－6）18 丸善石油松山

| 得 | 【丸善松】 | | 【日鉄】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 塩田 | GK | 川上 | 0 |
| | | GK | 岩嶋 | 0 |
| 1 | 石川 | FP | 若本 | 2 |
| 1 | 岡部 | FP | 素原 | 0 |
| 5 | 小笠原 | FP | 清原 | 0 |
| 0 | 木村 | FP | 池辺 | 5 |
| 3 | 伊藤 | FP | 古川 | 4 |
| 0 | 佐々木 | FP | 外山 | 2 |
| 2 | 北谷 | FP | 山口 | 8 |
| 6 | 神野 | FP | 杉本 | 1 |
| 0 | 吉村 | FP | 霜村 | 0 |
| | | FP | 中山 | 1 |

（審・手塚・渡辺）

18（4） PT （3）23

新日鉄名古屋 27（16－8 11－9）17 日本原子力研究所

| 得 | 【名古屋】 | | 【原研】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 岩上 | GK | 佐藤 | 0 |
| 0 | 伊藤 | FP | 菊池 | 3 |
| 1 | 阿久根 | FP | 大友 | 0 |
| 8 | 不破 | FP | 川上 | 3 |
| 8 | 蟹江 | FP | 大村 | 1 |
| 3 | 平野 | FP | 秋山 | 5 |
| 1 | 戸次 | FP | 相沢 | 0 |
| 3 | 上之薗 | FP | 安達 | 0 |
| 3 | 渡辺 | FP | 砂押 | 2 |
| 0 | 清水 | FP | 荻原 | 0 |
| | | FP | 宮本 | 3 |

（審・中山・大出）

27（3） PT （1）17

本田技研熊本 21（11－11 10－8）19 大阪ガス

| 得 | 【大阪ガ】 | | 【本田熊】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 森 | GK | 岩木 | 0 |
| 0 | 福田 | GK | 森 | 0 |
| 3 | 奥野 | FP | 田上 | 3 |
| 8 | 岩本 | FP | 斉所 | 5 |
| 1 | 竹志 | FP | 入江 | 0 |
| 1 | 藤井 | FP | 松永 | 4 |
| 2 | 竹内 | FP | 岩永 | 1 |
| 2 | 藤田 | FP | 岡崎 | 0 |
| 0 | 新家谷 | FP | 佐伯 | 8 |
| 0 | 高津 | FP | 中村 | 0 |
| 2 | 中村 | FP | 鯖江 | 0 |
| 0 | 山崎 | FP | 益田 | 0 |

（審・町田・浅川）

19（5） PT （2）21

三井石油化学 27（15－9 12－11）20 武田薬品光

| 得 | 【武田】 | | 【三井】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 清水 | GK | 渡辺 | 0 |
| | | GK | 杉弘 | 0 |
| 1 | 長棟 | FP | 田中 | 1 |
| 7 | 西野 | FP | 佐藤 | 2 |
| 2 | 杉山 | FP | 森重 | 11 |
| 4 | 末長 | FP | 村井 | 6 |
| 0 | 吉田 | FP | 相田 | 4 |
| 5 | 三宮 | FP | 中村 | 3 |
| 0 | 酒井 | FP | 三村 | 0 |
| 1 | 小川 | FP | 岡村 | 0 |
| 0 | 川本 | FP | 西本 | 0 |

（審・広沢・山田）

20（6） PT （5）27

白衛隊呉 26（13－12 13－11）23 セントラル自動車

| 得 | 【自衛呉】 | | 【セ自】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 坂井 | GK | 吉田 | 0 |
| 0 | 須甕 | GK | 佐藤 | 0 |
| 0 | 岩山 | FP | 日野 | 1 |
| 3 | 寿賀 | FP | 加藤 | 0 |
| 0 | 和田 | FP | 小野 | 2 |
| 5 | 西川 | FP | 嶋 | 1 |
| 2 | 岡田 | FP | 岸野 | 0 |
| 10 | 池田 | FP | 海老原 | 6 |
| 2 | 村岡 | FP | 阿部 | 0 |
| 4 | 利光昭 | FP | 谷中 | 11 |
| 0 | 安楽 | FP | 川崎 | 0 |
| 0 | 利光博 | FP | 尾形 | 2 |

（審・町田・浅川）

26（4） PT （6）23

トヨタ自動車 24（16－6 8－12）18 神戸製鋼所

| 得 | 【トヨタ】 | | 【神戸】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 玉津 | GK | 大谷 | 0 |
| 0 | 中西 | GK | | |
| 0 | 広田 | FP | 江口 | 3 |
| 3 | 高木 | FP | 須藤 | 0 |
| 2 | 相本 | FP | 中尾 | 0 |
| 4 | 近藤 | FP | 藤谷 | 1 |
| 0 | 鈴木 | FP | 河内 | 2 |
| 12 | 川田 | FP | 山崎 | 12 |
| 3 | 香井 | FP | 新家 | 0 |
| 0 | 久本 | FP | | |
| 0 | 松永 | FP | | |

（審・広沢・山田）

24（5） PT （1）18

▽準々決勝

三景 27（13－7 14－10）17 本田技研爽風会

| 得 | 【爽風会】 | | 【三景】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 三宅 | GK | 野田 | 0 |
| 0 | 松下 | GK | | |
| 4 | 山本 | FP | 犬飼 | 14 |
| 2 | 山田 | FP | 中島 | 0 |
| 0 | 小川 | FP | 地主園 | 4 |
| 5 | 柳沢 | FP | 白倉 | 0 |
| 2 | 清水 | FP | 奥村 | 2 |
| 1 | 船谷 | FP | 加藤 | 4 |
| 3 | 平子 | FP | 藤山 | 1 |
| | | FP | 飯塚 | 0 |
| | | FP | 近藤 | 2 |
| | | FP | 山田 | 0 |

（審・島田・羽田）

17（1） PT （5）27

○…日本リーグ二部2位の三景は、犬飼の個人技と速攻で着実に加点していく。

これに対し本田はサイドシュートと柳沢のステップシュートで応じる。

前半、両チームとも退場を多く出し、やや荒れ気味のゲームとなる。しかし、確実にチャンスをものにしていく三景がリードをとり、スローペースとなった後半も動きが鈍り、ミスをくり返す本田を突き放し、勝利を握った。

日鉄建材 21（11－10 8・7）15 新日鉄名古屋

| 得 | 【名古屋】 | | 【日鉄】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 岩上 | GK | 川上 | 0 |
| 0 | 服部 | GK | 岩嶋 | 0 |
| 1 | 伊藤 | FP | 若本 | 4 |
| 0 | 阿久根 | FP | 素原 | 0 |
| 5 | 不破 | FP | 清原 | 0 |
| 5 | 蟹江 | FP | 池辺 | 2 |
| 1 | 平野 | FP | 古川 | 0 |
| 2 | 戸沢 | FP | 外山 | 3 |
| 1 | 上之薗 | FP | 山口 | 3 |
| 0 | 渡辺 | FP | 杉本 | 9 |
| 0 | 大島 | FP | 霜村 | 0 |
| 0 | 清水 | FP | 中山 | 0 |

（審・金子・結城）

15（4） PT （3）21

○…前半、日鉄建材は持ち前のスピーディな攻撃と若本、清原の両左腕によるカットインで着実に得点、対する新日鉄名古屋もGK岩上を軸にディフェンスを固め、攻めては蟹江のカットインなどで対抗したが、前半10対7と日鉄建材がとり、試合の主導権を握った。後半に入っても、両チームとも動きは変らず、後半15分過ぎまで3点のまま緊迫したゲーム展開となったが、17分清原のロングから4点連取し、試合を決定づけた。準々決勝にふさわしい好ゲームであ

った。

本田技研北熊本 24（10－9、14－6）15 三井石油化学

| 区分 | 【本田熊】 | 得 | 【三井】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 岩木 | 0 | 渡辺 | 0 |
| GK | 森 | 0 | 杉弘 | 0 |
| FP | 田上 | 3 | 田中 | 1 |
| FP | 斉所 | 7 | 佐藤 | 0 |
| FP | 入江 | 0 | 森重 | 7 |
| FP | 松永 | 4 | 村井 | 4 |
| FP | 岩永 | 1 | 相田 | 1 |
| FP | 岡崎 | 0 | 中村 | 2 |
| FP | 佐伯 | 7 | 三村 | 0 |
| FP | 中村 | 2 | 岡村 | 0 |
| FP | 鯖江 | 0 | 西本 | 0 |
| FP | 益田 | 0 | | |
| PT | (2) | 24 | (3) | 15 |

（審・仲尾 小川）

○…前半15分までは、両チームとも堅い守りで5対5の均衡したスタートとなった。これを破ったのは三井。森重、相田のスピードあるプレーで3点を連取し波に乗れるかと思わせたが、本田も松永のポスト、中村の連続速攻で挽回し1点リードで前半を終了した。本田は、前半最後の勢いを生かし後半開始直後2分で3点を連前してペースをつかみ、その後も斉所佐伯のカットインプレーなどで加点し勝負を決めた。

三井は、17分から村井が奮起しスピードあるサイドシュートを見せたが、時すでに遅しの感を免れなかった。また、左腕を生かすことができなかったのも敗因のひとつであった。

トヨタ自動車 32（15－8、17－10）18 自衛隊呉

| 区分 | 【トヨタ】 | 得 | 【自衛呉】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 玉津 | 0 | 阪井 | 0 |
| GK | 中西 | 1 | 須堯 | 0 |
| FP | 広田 | 0 | 岩山 | 0 |
| FP | 高木 | 2 | 寿賀 | 1 |
| FP | 相本 | 6 | 和田 | 0 |
| FP | 近藤 | 1 | 西川 | 5 |
| FP | 鈴木 | 0 | 岡田 | 1 |
| FP | 川田 | 11 | 池田 | 10 |
| FP | 香井 | 8 | 村岡 | 0 |
| FP | 久本 | 0 | 利光昭 | 1 |
| FP | 松永 | 3 | 利光博 | 0 |
| FP | | | 安楽 | 0 |
| PT | (3) | 32 | (1) | 18 |

（審・上久保 北井）

○…トヨタ自動車は、スピードのある速攻、ロング、カットインと気合いのはいった多彩な攻撃で得点を重ねた。呉も池田を中心に速攻、カットインなどで反撃するが、トヨタの勢いを止められず、15対8で前半を終了。

後半も前半同様、スピード感あふれる攻防を展開したが、両チームも疲れが見え始めた。呉はトヨタのディフェンスのスキをついてシュートチャンスに結びつけるがトヨタGK中西の好守に阻まれ、追い上げるに及ばず、トヨタは終始マイペースで試合運び、大勝した。

▽準決勝

三景 19（9－7、10－7）14 日鉄建材

| 区分 | 【三景】 | 得 | 【日鉄】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 野田 | 0 | 川上 | 0 |
| GK | | | 岩嶋 | 0 |
| FP | 犬飼 | 6 | 若本 | 1 |
| FP | 中馬 | 0 | 素原 | 0 |
| FP | 地主薗 | 2 | 清原 | 0 |
| FP | 白倉 | 0 | 池辺 | 2 |
| FP | 奥村 | 0 | 古川 | 0 |
| FP | 加藤 | 3 | 外山 | 3 |
| FP | 藤山 | 0 | 山口 | 7 |
| FP | 飯塚 | 1 | 杉本 | 1 |
| FP | 近藤 | 5 | 霜村 | 0 |
| FP | 山田 | 2 | 中山 | 0 |
| PT | (2) | 19 | (3) | 14 |

（審・金子 結城）

○…前半立ち上がりは両チームとも攻めの歯車が合わずいま一歩のところで得点に結びつかなかった。しかし、10分を過ぎると動きがよくなり日鉄の山口の上からのシュートと、三景は犬飼のシュート、また近藤のポストシュートにより両チームとも一進一退のゲームを転回して前半を終えた。後半になるとセットプレーでまさる三景が、うまく得点を重ね少しずつ点差を広げた。日鉄建材は山口に頼よる面が多くみられ三景のディフェンスに守りぬかれたようである。また三景のGK野田の好守がところどころ目立った。総合力でまさる三景が勝利をおさめた。

トヨタ自動車 25（12－9、13－13）22 本田技研熊本

| 区分 | 【トヨタ】 | 得 | 【本田熊】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 玉津 | 0 | 岩本 | 0 |
| GK | 中西 | 0 | 森 | 0 |
| FP | 広田 | 0 | 田上 | 8 |
| FP | 高木 | 3 | 斉所 | 3 |
| FP | 相本 | 3 | 入江 | 0 |
| FP | 近藤 | 2 | 松永 | 3 |
| FP | 鈴木 | 0 | 岩永 | 2 |
| FP | 川田 | 10 | 岡崎 | 0 |
| FP | 香井 | 7 | 佐伯 | 5 |
| FP | 久本 | 0 | 中村 | 1 |
| FP | 松永 | 0 | 鯖江 | 0 |
| FP | | | 益田 | 0 |
| PT | (1) | 25 | (4) | 22 |

（審・島田 羽田）

○…トヨタが先行、熊本が追いつくという展開で同点〜1点差の攻防から前半終了直前、熊本の雑な攻めに乗じてトヨタが2点を取り前半はトヨタ3点リード。後半立ち上がりもトヨタの速い攻撃が熊本ディフェンスをゆさぶりたて続けに得点、熊本も必死で田上を中心とした巧い攻撃で反撃するがディフェンスがふんばり切れず、1点差につめるのが精一杯、終了間際トヨタ川田の退場があったが点差をつめることができず、終了のホイッスルを聞いた。

▽3位決定戦

本田技研熊本 25（14－7、11－11）18 日鉄建材

| 区分 | 【日鉄】 | 得 | 【本田熊】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 川上 | 0 | 岩木 | 0 |
| GK | 岩嶋 | 0 | 森 | 0 |
| FP | 若本 | 2 | 田上 | 6 |
| FP | 素原 | 0 | 斉所 | 6 |
| FP | 清原 | 0 | 入江 | 0 |
| FP | 池辺 | 3 | 松永 | 4 |
| FP | 古川 | 0 | 岩永 | 2 |
| FP | 外山 | 1 | 岡崎 | 0 |
| FP | 山口 | 12 | 佐伯 | 6 |
| FP | 杉本 | 0 | 中村 | 1 |
| FP | 霜村 | 0 | 鯖江 | 0 |
| FP | 中山 | 0 | 益田 | 0 |
| PT | (2) | 18 | (7) | 25 |

（審・仲尾 小川）

○…準決勝で惜敗の両チームともにやや気落ちした様子が見られたが、ベテラン田上を中心とした本田の方にまとまりが早く出て、気力の充実した好プレーが続いた。立ち上がり本田はペナルティー、コンビプレーなどで着々と加点し、対する日鉄は速攻、コンビプレーがかみあわず山口のシャープなプレーで応酬したが、前半ミスの少ない本田が点リード。

後半に入っても日鉄は若さが得点に結びつかず、前半同様まとまりのある本田が圧倒し中でも山口のシャープなプレーは印象的であった。ベテラン田上の好リードに佐伯、斉所の切れ味のあるプレーがかみ合った本田の快勝。

▽決勝

トヨタ自動車 33（10－14、17－13、3－2、3－2）31 三景

| 区分 | 【三景】 | 得 | 【トヨタ】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 野田 | 0 | 玉津 | 0 |
| GK | | | 中西 | 0 |
| FP | 犬飼 | 8 | 広田 | 0 |
| FP | 中馬 | 2 | 高木 | 4 |
| FP | 地主園 | 3 | 相本 | 4 |
| FP | 白倉 | 0 | 近藤 | 0 |
| FP | 奥村 | 1 | 鈴木 | 0 |
| FP | 加藤 | 4 | 川田 | 16 |
| FP | 藤山 | 3 | 香井 | 8 |
| FP | 飯塚 | 0 | 久本 | 0 |
| FP | 近藤 | 8 | 松永 | 1 |
| FP | 山田 | 2 | | |
| PT | (5) | 31 | (8) | 33 |

（審・上久保 北井）

○…立ち上がり三景は、地主園の3連続得点で先行、前半10分までに5点差をつける。トヨタは、15分過ぎからペースを取り戻し、香井のサイドシュートなどで得点を重ねるが、前半は4点差までしか追撃できなかった。後半に入りトヨタは川田のミドル、ペナルティーなどで追い上げ、後半17分遂に同点に追いつき、25分には逆転し28分には2点差をつけたが、三景も驚異の粘りを見せ45秒前に近藤のミドルシュートで同点に追いつき延長に入る。延長に入りトヨタの若さと勢いが爆発し、ペナルティースロー、速攻、ミドルシュートと得点をし遂に三景を突き放した。GK中西の好守が延長に入り光った。

# 第1回 顧問会議開かる
## ―財団の運営について論議―
### ハンドボール界の発展を願う
### 熱っぽい意見が続出した

財団設立後初の顧問会議が、去る12月10日、岸記念体育館会議室で開催された。

わが国ハンドボール関係者間のコミュニケーションが不足しているという指摘が前々からあったが、それを解消するために、地方協会については全国理事長会議を去る4月に開催し、続いて今回、顧問、参与、日本リーグオーナー、加盟団体代表との意見交換を目的とした顧問会議を開いたものである。

斉藤会長が内閣の財政審議会を中座して来られて、予定どおり午後3時から開会した。

会長の挨拶のあと、出席者全員が自己紹介し、続いて日本協会の理事が資料に基づいて日本協会の概況を説明し、また、今回のアジア大会におけるハンドボール競技の初参加でわが国が中国に敗れたことは重大なことであり、今までは違った方法でやらないと、わが国はアジアの中でも太刀打ちできなくなっていくことを強調した。

引き続いて、財団運営の最大の課題は財政問題であることから、財団の財務状況について大野総務部長が、資料に基づき詳しい説明をした。その要旨は次のとおり。

(一)まず、財団基金（基本財産）の募金状況は別表1のとおり。

地方協会分未収約八〇〇万円、加盟団体分未収　約七〇万円。

(二)経常収支の状況は別表2のとおりで、昭和57年度予算における経常収入は、ここ2、3年変動の大きい物品売上収入、機関誌収益を除けば約二、五〇〇万円経常的事業に対する日体協補助金を含めても約二、九〇〇万円。これに対応する経常支出は、事務的経費だけで約二、四〇〇万円、経常的事業費を含めると約三、九〇〇万円になる。

したがって、経常的に約一、〇〇〇万円の収入不足が生ずることになる。昭和58年度の予算も目下策定中であるが、ほぼ同様の数字になる見通しである。

このほかに特別会計事業としてロサンゼルスオリンピックの男女各アジア予選、世界ジュニア選手権の男女各アジア予選と本大会の公式戦があるほか、男女ナショナルチームのヨーロッパ遠征、ジュニア（高校生を含む）の合宿などを予定しており、これらの経費を大会収入や物品売上収入、機関誌収益などの特別会計事業収入を充てても約三〇〇万円位は一般会計からの繰入れが必要になる。

今までは、経費の節減や旧協会から継承金などで何とか賄ってきたが、これから積極的に活動しようとすればするほど、事務費、事業費とも増加し、積極的に新しい財源を確保しなければならなくなる。

以上の説明のあと、財団の運営上の問題点、とくに財源の確保の点について、要旨次のような意見の交換があった。（文中敬称略）

**徳永**　結局現在の加盟金、登録料、検定、審査等を値上げするか、物品売上事業を積極的にやるか、寄付金を集めるしか方法がないのではないか。

**阿部**　基金を更に倍増させてその果実収入を増額できないか。また補助金を政治的に増額できないか。さらに現行の登録料などの値上げについてもある程度ご無理を願ったらどうか。参加料等や寄付など大会ごとに集める方法も考えられる。

また、支出面では、事業費は削減するわけにはいかないだろうから、その他の事務費を〝行政改革〟で削減する余地はないか。

**大野**　財団法人化したときの基本金は、会長からとくに声をかけていただいて、新日鉄と大同特殊鋼が各三〇〇万円ずつ、その他の日本リーグ一部加盟企業から一律二〇〇万円ずつ拠出願ったもので、さらにもう一度というのは難しい。地方協会からの未拠出金と日本リーグ二部加盟企業、業者等にお願いすれば、倍増とまではいかなくても、ある程度は上積みできると思う。

登録料等の値上げについては、現在でも他の競技団体に比べれ

財団募金入金状況　（昭和57年12月10日現在）

| 区　分 | 募金額 | 免税手数料 | 入金額 |
|---|---|---|---|
| 地方協会 | | | |
| 38 件 | 11,856,000 | — | 11,856,000 |
| 企　業 | | | |
| 21 社 | 35,100,000 | 1,053,000 | 34,047,000 |
| 2 社 | 3,772,000 | — | 3,772,000 |
| 小　計 | 38,872,000 | 1,053,000 | 37,819,000 |
| 加盟団体 | | | |
| 4団体 | 1,330,000 | — | 1,330,000 |
| 理事以上 | | | |
| 21 名 | 656,000 | — | 656,000 |
| 合　計 | 52,714,000 | 1,053,000 | 51,661,000 |

ば高いという声と、財団になって却て値上げとはという声もあると思うので、よく地方協会の意見も聞いて決めなければならないと思う。
事務費の節減については、往年と違って、国際大会、外国遠征等の増加、日体協委託事業増加に伴い事務量が激増したのに、事務局は旧態依然だったのを、財団設立後日立栃木のご協力で伊藤同監督に1年間出向して貰って事務局長に専念、その後も同じく日立家電の部長に出向いただいて事務局を充実した。財団設立発起人会でも、金はかかっても日本協会はやることはやって貰いたいという意見があったので、このような措置を講じた。事務局を強化して事業を活発化するのがあるべき方向だと思う。

**荒川** 財界の寄付は、体協の資金財団が窓口になって一本化されているので、各競技団体が個別に寄付を集める余地がない。

**会長** 登録料、検定料などの各収入項目を増額できないか。増額できないとすれば、ハンドボールの関係企業が負担し、それでも足らなければ大会ごとに寄付をお願いしなければならないと思う。基本金をもう一度お願いすることはできない。

**阿部** 結局受益者負担というか、ハンドボールをやる人が自分で負担していくしかないと思う。ラグビーだって同じだ。ハンドボール人口は一番多いのではないか。一流チームを招待して観客を集めることだ。

**会長** 観客動員はいつもお願いしている。強くなれば集まる。とくに東京六大学が強くなれば。

**阿部** 日体大や筑波大は強くて当然と考えられている。六大学の早稲田と慶応が強くならないと人気が出ない。40年経ってもため息つくのはハンドボールだなあ（笑）身障者なら笹川さんにお願いできるかも知れないけど、身障者のハンドボールはない。

**徳永** アジア選手権大会を日本に誘致する考えはないか。

**荒川** アジア地区予選も含めてアジアの大会には補助金がつかないので、参加国が多く経費の嵩むアジア選手権大会の誘致は現状では困難だ。

**徳永** アジア大会では中国には敗れたが、中国だって同じ人間だ。

**村田** 58年度事業計画の中に招待の計画がない。ジャパンカップも56年度に第1回をやっただけ。財源確保という点からいうと逆行している。また、招待国はいつも共産圏だがどうして自由圏から招待しないのかという記者の質問も受ける。

**会長** 海外に遠征しても普及にはならない。前回のジャパンカップのときは、東ドイツの大統領に直接頼んで特別に遠征の日程を入れて貰った。ジャパンカップでも、客観情勢が整うのであれば検討してみようではないか。

**荒川** 招待の方がいいことは事実であるが、会場や受入体制の問題がある。強化と普及の両面から理事会でも検討してみたい。

**阿部** OBを対象とした寄付集めはしたことがあるのか。

**荒川** 財団化のときはその話が出たが実現するに至らなかった。

**阿部** 40歳から70歳までのハンドボールOBをブロック毎に組織化して、終身会員として毎年年会費として1万円ずつでも集めたらどうか。そのための事務局として一人位雇えると思う。危急存亡のときはそれしかない。ラグビーもそうしている。要は自力でやるしかないということだ。

**会長** いままで出た意見をもとに事務当局で原案をまとめていただいて、それをもとに具体的に進めようではないか。（一同拍手）

以上で2時間半に及ぶ意見交換会を終え、引き続き懇親会を行ないました。

（財）日本ハンドボール協会の財政状況

（経常的収入の状況）　（単位　千円）

| | 57年度予算 | 58年度予算（原案） |
|---|---|---|
| 負担金（加盟金） | 4,350 | 4,350 |
| 事業収入 | 17,780 | 17,540 |
| 　登録金 | 9,670 | 10,000 |
| 　検定・審査料 | 5,400 | 5,400 |
| 　開催権料 | 2,710 | 2,140 |
| 預金利子 | 3,000 | 4,000 |
| 　経常収入計 | 25,130 | 25,890 |
| 経常的補助金 | 3,885 | 3,825 |
| 　経常的収入 | 29,015 | 29,710 |

（経常的支出の状況）

| | 57年度予算 | 58年度予算（案） |
|---|---|---|
| 加盟金 | 660 | 660 |
| 事務費 | 23,403 | 24,730 |
| 　人件費 | 9,843 | 10,800 |
| 　運営諸費 | 6,990 | 7,880 |
| 　旅費 | 4,020 | 3,300 |
| 　渉外費 | 1,000 | 1,000 |
| 　その他事務費 | 1,550 | 1,750 |
| 　事務的経費計 | 24,063 | 25,390 |
| 団体補助・大会費 | 4,380 | 4,880 |
| 普及関係事業費 | 4,090 | 2,890 |
| 審判関係事業費 | 2,116 | 2,660 |
| 強化関係事業費 | 4,660 | 6,600 |
| 　経常的支出計 | 39,309 | 42,420 |

（注）昭和57年度予算の負担金収入には日本リーグの事務員負担金を含む。

## 第1回顧問会議出席者
（敬称略）

**顧問**
河島武四郎（東京在住協会創設時の役員）
徳永陸繁（東京在住前副会長）

**参与**
阿部二郎（筑波大学協会創設時の役員）
全国連盟代表
嶋田新太郎（全国高体連ハンドボール部長）

**日本リーグオーナー**
大阪イーグルス　村田弘
大崎電気　渡辺佳英（代理）
日新製鋼　長沼孝雄（代理）
日新製鋼　村上正樹（代理）
立石電機　山越武司（代理）
日立栃木　山中喜作（代理）
三景　吉近正幸（代理）
中村荷役　飯田信行（代理）
東京重機　近藤金博（代理）

**協会役員**
会長　斎藤英四郎
専務理事　荒川清美
常務理事　総務部長　大野金一
常務理事　競技部長　安藤純光
常務理事　広報部長　北川勇喜
常務理事　財務部長　清水正
常務理事　普及部長　大西武三
理事　財源問題プロジェクトチーム　山田稔
強化部長　竹野奉昭
審判部長　岡前義春
会長代行　福田誠
事務局長　黒田富郎

# 昭和57年度全日本大会の審判を顧りみて

## レフェリーとしての質や技術の向上の努力開花

日本ハンドボール協会審判委員長
岡前義春

ＩＨＦの大幅な競技規則の改正に伴って、わが国では、8月の改正期日を繰り上げて4月1日より、各国の実施に先がけて思い切った競技規則の改正を実施した。その競技規則も、中央研修会、ブロック研修会、各都道府県の伝達講習会を重ねて、改正の主旨、問題点など次第に全国に徹底した。それから二年目である。その間、55年12月にＩＨＦ／ＰＲＣ委員のエリック・エリアス氏を講師に迎え、改正前の理論と実技の研修、また、改正後の56年12月には、ＩＨＦ／ＰＲＣ委員長のカール・Ｅ・ワング氏を講師に招いて、問題点の理解を深め、国際審判員の養成のために、体力テスト、実技の指導を得、併せて国内競技規則の適用について一層の徹底を各ブロック部長の協力によって研修会を通じて円滑な競技運営を計る努力をしたのである。

審査委員を中心に、審判関係各位、競技者の注目を集めた2年目が最良の年度となったことを幸いに思う。過去には、海外での審判実績も少なく、審判員が自己の目で好ペアーのレフェリングを確かめる機会のなかったことを、関係者は口を揃えて残念に思ったのであるが、次第に理解を得て海外にも進んで研修に行く雰囲気も出来、その評価も高まった。その経験を生かし、国内でもＪＨＡレフェリーコースの合格者から国際審判員が誕生する時期が到来したのである。一昨年から続けて、クウェート、韓国、インドでのアジア地区、ＩＨＦレフェリークリニックで国際審判員の資格を取得し、現在では15名の有資格者を数えるようになった。その国際審判員が各全日本大会で中心となって全国の審判員相互が、レフェリーとしての質や技術の向上に努力することが可能となったと思う。

しかしながら、国際審判員が関係者の努力によって増えて来たことを、逆に多く取得させ過ぎだという悪評も耳にするが、決してアジアの各国、ヨーロッパ諸国に比して多過ぎるのではない。主な国の有資格者数を挙げると次のようである。ルーマニア20、東独18、韓国15、ユーゴ18、デンマーク13ソ連12である。またパネルＢ（候補者）もほとんど10名を超えている状態で、やっと日本も人数の面では肩を並べられるようになったのである。

これから技術面の研修を積んで、出来るだけ早い時期に世界の檜舞台にてレフェリングすることが今後の課題である。それがためには、アジアにおける審判の主導権を握るべく、ＩＨＦに通じる人材を日本から送り出すことが重要であると考えられる。

### 国際審判員を中心に

さて各全日本大会での国際審判員が中心となって、レフェリーの質と技術の向上に努めた具体的な例につき述べよう。

現在の全日本大会の審判員の構成は、開催地を中心にして経費などの面から、隣接ブロックの審判員で構成されているが、すべてハイレベルの審判員が集合している訳ではない。そこで技術の向上を願って、連盟、ブロック部長から各大会に国際審判員を何名か隣接ブロック外から参加をさせる策が、出され、これが好結果を生んだものと信じる。国際審判員を中心として、目で見、耳で聞き、相互に謙虚な気持で研修をする態度が確立されたことでである。全日本大会に参加したレフェリーの各位の報告の中に、実践に伴う意見の交換が出来、また、疑問点の解明が出来、実際に国際審判員のレフェリングを見ることが可能で、審判員の質と技術について理解見聞が非常に参考になった。これをそれぞれの県内審判員に機会をとらえ伝えること義務であり、一層の研修をしたい熱意がうかがえたことは大成功であった。これが今後の審判技術の向上に役立つことが出来るものと期待している。

全日本総合選手権大会の審判員は、国際審判員が8ペアー中7ペア参加した。しかもインドで開催されたアジア大会のレフェリーとして参加した光島、佐分両氏の実践報告を聞きながら具体的審判技術の研修を重ね競技の運営が出来た。レフェリーに対するゼスチャーや口頭での誹謗はきびしく規則を適用する。判定に対しては、プレイヤーの立場に立って笛を吹くなど基本的な問題を検討し、審判技術の向上に全員が努力する態勢がとれたことである。

昭和58年度は、一層飛躍の年となることを願い、審判員各位の研修の努力を重ねるよう期待して止みません。しかしながら、審判部門のみで審判技術の向上はなく、競技の指導者、競技者が共に意見交換をしてこそハンドボールの発展があると考えます。

# 日本ハンドボール協会審判部合同委員会記録

日　時　昭和58年1月22日(土)～23日(日)

場　所　熱海市「新熱海ホテル」

出席者　競技委員長　安藤　審判委員長　岡前　審査委員　入江　片瀬　佐野　岡本

ブロック長　新橋　由利　清水　加藤　吉田　狩野　河本　岡村　日野

連盟部長　中西　藤田信　柳井

ルール研究委員　大塚　斉藤　島田　清水　原

〈敬称略・順不同〉

司会：佐野和夫（審査委員）

報告1　昭和57年度審査委員会活動報告及び大会視察報告（入江）

「ハンドボール競技研修会」については別紙資料を参照して下さい。

質問「3回のハンドボール競技研修会参加者数は？」

答　第1回57年8月　インターハイ―鹿児島（隼人）5名

答　第2回57年8月　教職員大会―群馬（富岡）17名

答　第3回57年10月　国体―島根（温泉津）8名

三つの大会について思うことは、審判員の格差が目立つレフェリーが試合会場に来るまでの努力（心構え）が足りないように思う。

（ブロック長の日頃の指導が望まれる。レフェリー推薦をよく考えて適する人物を出す）

## 2　ブロック活動報告

北海道（新橋）2月、8月に審判講習会を開きレフェリーの競技向上、ルール研究を深めた。62年インターハイを控えレフェリーの量、質とも充実させたい。

東北（由利）来年インカレ、さ来年インターハイを控え講習会を重ねていきたい。同じA級でも格差があり、どううめるか課題である。

関東（清水）3月、体協で講習会を行った。関東ブロックはスタッフとも豊富で恵まれている。

北信越（加藤）3月、福井で講習会開催。地域ごとに講習会を開き徹底を計っている。

東海（吉田）今年、豊田でインターハイがあるので、準備に全力をあげている。

近畿（狩野）合宿（2泊）をして講習会を開く。技術向上委員会を京都で開催、若手の参加が目立ち大変良い傾向だと思う。

中国（岡村）春に講習会開く。国体（島根）があったので各県の審判技術の差が縮った。国体の試合の後反省会を開いたが成果があった。鳥取国体を控え準備で大変だ。B級審判員の向上を望む。

四国（河本）2月、香川で講習会。7月四国大会、8月国体予選の折、各県よりペアを集め研修を重ねた。

九州（日野）3月、講習会開く。B級テストを地方でやってもらって良かった。（昨年3会場）インターハイの折、控審判もやると食事をとる暇もないと苦情が多く出た。

## 3　連盟部長報告

高体連（中西）選抜（57、3、名古屋）学年末で審判員の転任などで混乱した。インターハイ（8月鹿児島）、国際審判員が3ペアも来て、大変好評であった。次期開催県のペアにも来てもらった。

九州ブロック長から話しはあったが、控審判員のあり方を今後の課題にしたい。

学連（藤田）各ブロック大会は、その地域にお願いし実施している。ゴールキーパーに直接シュートした場合、直ぐ退場にしている。（顔面に直接当った場合―事故防止の為、学連内規として）

教職員（柳井）大会に不慣れでとまどいを感じたレフェリーもいたので、信頼出来る人を出して欲しい。

## 4　その他

（岡前）今年度AB級合格者（別紙）

A級6／19～20（日体大）　12名合格名〈16受験〉

B級
6／14～15（熊本市）
6／19～20（京都市）
6／25～26（立川市）
32名合格〈39名受験〉

JHAレフェリーコース

B級合格者6名（前期29名　後期20名受講）

国際審判員（Aパネル）は現在15人。

## 議　事

1、昭和58年度事業計画および予算案

予算案は原案（別紙）が岡村委員長より示され、説明がなされた。

原案通り総額¥2,660,000決定(昨年¥2,166,000)

意見として、「審判員のレベルアップは選手の技術向上にもつながる大切なものだ。レフェリーの海外研修をもっと積極的にやって欲しい。」「A級の試験会場も地方で出来ないか」

2、昭和58年度ハンドボール競技研修会

8月8日(日)　奈良（生駒市）教職員大会　担当者　藤田、岡本

10月17日(月)　群馬（富岡市）国体　担当者　片瀬　佐野

3、公認審判員ブロック研修会

北海道(3月札幌)、東北(未定)、北信越(3月長野)、関東(3月東京)、東海(3月名古屋)、近畿(未定)、中国(3月徳山)、四国(2月徳島)、九州(未定)

4、JHAレフェリーコースの運営

前期：3月28日(月)、29(火)、30(水)　後期：8月23(火)、24(水)、25(木)いずれも東京で行う。

5、昭和58年度A、B級公認審判員テスト

A級　6月、東京　B級(東)6月下旬東京　(中)6月11、12京都　(西)5月15、16大分

原案ではB級は東西2会場で行うとなっていたが、昨年同様3会場でやって欲しいとの強い要望があり上記の3会場に決定する。日時、場所が決定次第、協会から本人宛に通知する。

6、全日本大会審判員割当

別紙の通り決定。ブロック長は3月10日までに協会審判委員長宛に、正式名簿を送付すること。国際審判員パネル候補者を出して下さい。ブロック審判長が推薦する。

7、レフェリーコース受講者の処理について

前期3日間、後期3日も受講していながら残念ながらB級には合格しなかったが、その技術に応じて処理してあげて良いのではないか。

C級に相当する者は各ブロックへ届ける。D級はとらせるように都道府県協会に連絡し処理する。

8、レフェリー、トレーナーシンポジューム派遣について

5月19日～23日　西ドイツで行われる。日本ハンドボール協会より光島磯雄氏を派遣する。

9、審判員ワッペンについて

ルール研より「従来の公認審判員の日の丸のワッペンは古くなった。全国大会に出るAB級はCD級と区別して良いのではないか」との案が出る。CD級については従来通り（当分）決定、従来の「日の丸」ワッペンと異る、AB級のブレザーに着けていたような型とする。赤色の台にする。A・B級と多少違うようにする。月桂冠の葉の部分の色をかえる。

10、控審判員と記入用紙

今年のインターハイでも多くの苦情が寄せられたが、正規の審判員がレフェリーをし控審判も行うと拘束される時間が多くなり食事もとれないということだ。本来タイムキーパーが行うべき事を、信頼してまかせられないから、審判員が控審判も行っているのが現状である。将来はタイムキーパーを出来る者を養成し控審判制度を廃す方向に検討すべきである。

現段階では2人の控審判を1人とする。全国大会などのような大きな大会ではタイムキーパーとして公認審判員を別に当てる。（級にはこだわらない）

戦評は必要ないのでは、という意見も多く出されたが、報道機関へのサービスもあるので、続ける。

タイムキーパー記入用紙―原案（別紙）のものを作成する。英語は日本語に改める。4月より使用。

11、その他

1、審査員報告（入江）

58年度AB級受験者　書類審査の結果　A級17人　B級33人

申請には所定の用紙を使用して欲しい。

58年度も昨年同様、3つの目標を挙げ徹底を計りたい。

① ラフプレーをなくそう。（クリーンなハンドボールをめざす）

② CR、GRの任務の確認。（ペアのコンビが大切である）

③ レフェリーは体調を整えて選手とともに走ろう。（最も見安は位置をとることが大切）

全中大会はC級でも良い事になっているが、各都道府県協会は審判員養成につとめて欲しい。

2、申請書について（岡前）

申請書は本籍地等不必要部分もあるので改良する。従来の申請書（写真添付）はD級のみに使用。

上級申請はA、B級はブロック推薦書十手帳⇩日本協会へ

C級は　都道府県推薦書十手帳⇩ブロックへ⇩日本協会へ　D級については従来通り　申請書⇩都道府県⇩日本協会へ

（清水正）　B級申請にはブロック大会を経験しなければならないという規定があるが、どうかと思う。B級申請の為、無理してブロック大会を吹かせる為、ブロック大会の運営、レフェリーのレベルダウン等の問題がある。それにB級には厳しいテストもあるのでブロック大会経験をなくしても良いのではないか。

結論―やはり従来の規定のままとする。

但し問題を少なくする方策として次のようにする。

ブロック大会とは複数の都道府県が集まって行う試合を指す。各地域の学連大会もブロック大会と認める（従来も認めていたところもあったが、今回確認する）

全国中学大会、高専大会、自衛隊、クラブ大会、それに東日本学生大会、西日本学生大会も全国大会とする。（但、従来通りC級も吹ける）

3、国際審判員の活用について

（中西）日本協会が主催して、優秀な国際審判員を集めて笛を吹いてもらいたい。レフェリーの研修の為にぜひ実現して欲しい。

（岡前）早い機会に年に一度くらい実施できるよう考えたい。

4、マツヤニ使用の件

（中西）日本協会ではマツヤニを禁止していないが、インターハイ等の高校生にも使用させて良いものか。従来は教育上の事もあるので禁止していたが、技術向上の為使用させて欲しいという意見が多く出ている。

（岡前）基本的には従来通り。体育館等の施設で支障がなければ使用させて良いのではないか。各連盟で大会毎に規定すれば良い事だ。マツヤニの成分、副作用等については業者も不明との事である。

5、審判員の帽子について

（中西、日野）今年の鹿児島インターハイで、炎天下、頭髪の薄いレフェリーが、気の毒であった。帽子をかぶらせても良いか。

結論―基本的には望ましいものではないが、その大会の運営上の事であり、競技に支障なければ審判長の判断で使用させて良い。サングラスも同様。

6、ゴールキーパー

のマスクについて

（藤田）学連ではキーパーの顔面負傷が目立つ。

結論―危険防止のマスク、メガネ等は、他人に危害を与えないものであれば状況に応じて許可して良い。（IHFでも検討中である）

7、ハンドボール競技研修会について

参加者が少ないのは残念である。―日程等を考慮し多数の者が参加できるよう検討する。

8、終身審判員（金バッチ）について

（岡前）金バッチ製作に手間どり大変遅れて申し訳けなかったが、昨年5月発送した。

ルールブックにも載せ、手続方法などはっきりさせる。認定書なるようなものを発行する。

9、その他

近年応援者も多くなってきた。インターハイ等外でやる時は応援席を設けたら良い。

以上

# ◇第9回アジア大会に参加して

## —怒らず、あわてず、争わず、諦めず……

レフェリー　光島磯雄
佐分正典

一九八二年第9回アジア大会にハンドボールが正式種目として加えられることとなり、多くの人々から期待を寄せられ、日本選手団第3陣と共に私達二人もレフェリーとしてその使命を重く感じつつ成田空港を出発したのは、11月16日9時30分であった。飛行時間約10時間、途中バンコクで休憩しニューデリーに着いたのが夜、現地時間21時05分。空港でああでもない、こうでもないの問答のやりとりの果ては宿泊ホテルに指示され他種目のレフェリー諸氏とホテル・ローディーに入ったのが夜半過ぎであった。空港では、日体協から先発で現地入りしている福山氏が開口一番「何事もこれから、インド式になるように、決して怒らず、あわてず、争わず、そして諦めず、が肝心です」の言葉で始まる説明をうけたが、このことは日毎に時間の経過と共に実感として理解した。

これらのことは、たとえば大会中に個々が行動するときに必須なIDカード（身分証）の入手手続、レフェリーミーティング、担当レフェリー割当の受領、スコアーシートの受領等、すべて自分から進んで交渉連絡し要求をしなければ、全然といっても過言でないくらいわからない羽目となり、外国から来た役員・レフェリーはインドの不手際にただ呆れていた。ホテルには専用のインフォーメイションが置かれ、係が常駐していたが、これも開会式の当日までは全く西も東も定かでない我々は、オンボロタクシーに乗り、あちらこちらと訪ねまわらざるを得なかった。

インドは、歴史的には誠に古い伝統を持つ国であるが、その地域は南北、東西ともに広大で、自然の様相、言語、文化、人種、宗教も多種多様で、その多様性がそのままに現れている状態で国が存在しているといわれている。「さまざまなもの」と「国としての統一」がインド的世界であり、これが重複しあっているところに国柄が現れているとしか思えぬ場面は随所に見られた。誰もが知っている貧富の差の極端さは、豪邸とスラム同様の集落、科学の進歩を示す先端的文明と膨大な文盲人口と識字率など百聞は一見にしかずの感を深くした。

アジア大会という国家的行事についても、このインドの国民のどの位の割合が理解しているものなのか、これはラッシュの中を専用車で通りぬける我々外国人の皮相な見方であろうが、11月19日午後3時、アジア大会開会式がネールスタジアムで定刻に行われたが、カメラの使用禁止という理解に苦しむ取締りのなかでは興味も半減したという雰囲気、参加35カ国の入場行進を主体としたセレモーニーを見ても、日本は真に模範的態度、他国は入場後ばらばらの状態で芝生に座り込む、雑談をする、象の写真を写しに行く、などを見るとそれぞれの国柄がわかるような気がする。

ハンドボール部門では、11月22日レフェリーミーティングを皮切りにプログラムが開始された。

11月22日(月)レフェリーミーティング15時　デリー大学

出席者

IHFから　パウル・ヘクベルク会長、リッケンバーガー理事長
カール・E・ワング審判委員長
AHFから　ハッサン理事長
インド　カポール会長
レフェリー　日本、クウェート、バーレーン、韓国、アラブ連合、インド（2ペア）　計14名

インドのカーン理事長の挨拶のあと、IHFカール・E・ワング氏がこの大会の意義、各国レフェリー紹介、ルール上の問題点、質疑応答があり、約1時間半で終了した。その後ハッサン理事長より初日のレフェリー割当発表があり、書類にサインをすることで確認をした。

11月23日(火)

9時　日本　35—19　UAE
韓国レフェリー担当
技術的な差は大きく、日本のワンサイドゲームに終った。

14時　中国　28—16　バーレーン
光島・佐分担当
中国の体力が勝り、力の差がはっきりしたゲームであった。

11月24日(水)

9時　クウェート36—17インド
バーレーンレフェリー担当
クウェートのテクニックが勝ったゲームであった。インドの健闘が目立った。

14時　韓国32—18サウジアラビア
クウェートレフェリー担当
韓国のスピードがサウジアラビアを圧倒した。

11月25日(木)

9時　韓国　34—24　バーレーン
インドAレフェリー担当
韓国のスピード、テクニックの勝利。

10時30分
中国21—19サウジアラビア
UAEレフェリー担当
中国、パワーの勝利。

14時　クウェート29—19UAE
韓国レフェリー担当
クウェートのパスプレー、テクニックがUAEを圧した。

15時30分　日本26—12インド
バーレーンレフェリー担当
後半、日本の実力が発揮され勝負を決めた。

11月26日(金)9時

サウジアラビア15—14バーレーン
光島・佐分担当
サウジアラビアの粘りが、バーレーンのミスをさそった、サウジ

アラビアの逆転勝ち。

14時　日本25－20クウェート
バーレーンレフェリー担当

日本にとって第一関門のゲームである。始めから積極的に攻め後半のクウェートの追い込みをよく押えた。

11月27日(土)

9時　中国　29－28　韓国
クウェートレフェリー担当

中国は韓国のスピードによく追い付き、よく粘り、後半韓国のミスを拾って一気に勝負を決めた。

14時　UAE33－28インド
光島・佐分担当

インドはよく健闘したが、荒いディフェンスで自滅した。



日本のレフェリーの技術は高い

11月28日(日)

9時
サウジアラビア34－28UAE
インドBレフェリー担当

互いに相ゆずらぬ好ゲーム。後半20分UAEの選手に赤カードが出されたあと、サウジアラビアは一気に勝敗を決めた。

10時30分
バーレーン31－16インド
UAEレフェリー担当

インドは、負傷欠場でメンーバを欠き、ワンサイドゲームに終った。

14時　決勝リーグ
日本21－20韓国
クウェート
レフェリー担当

試合開始からスピードのある好ゲームで、互角にゲームは展開した。後半、韓国のミスを日本が拾って勝敗を決めた。

15時30分決勝リーグ
中国28－24クウェート
バーレーン
レフェリー担当

中国は手堅いゲームはこびでクウェートに隙を与えなかった。

11月29日(月)休養日
アグラーのタージマハール見学

11月30日(火)

最終日になって変事が起った。これは真に西アジア的であり、今回の大会の特質の一つをあらわすものと思われるので、合せて記しておくことにする。11月30日(火)8時30分、会場に到着し観戦の位置につこうとしていたところ、突然レフェリー割当係から韓国対クウェートのゲームを担当するように、と知らされた。前々日の試合終了後30日のレフェリー担当の有無を彼に確認し当日は「フリーである」との答えをもらいそのつもりでいたところなので、急遽ホテルに装具を取りに帰り再びコートに来たところインドAペアが担当することになっており、あまりの馬鹿々々しさに腹立たしく事情説明に来たハッサン氏に「RIDICULOUS」を連発して忿懣の意をあらわしたが、ハッサン氏は、「誠にすまぬ」の一点張りで、「諒解してくれ」と頭を下げるので深く追いこむことを止めた次第である。後刻聞いたところでは、韓国クウェートのゲームにインドレフェリーが当てられていることを知って、どちらかの国が不満を述べたことが原因となっているらしい。このようなことは、その時点で却下すべきで、「TECHNICAL REGULATION」があるにもかかわらずレフェリー割当がぐらついたための不手際といえよう。しかしながら、あの場合バタバタと用意してぎりぎりの時間に間に合ったとしても、常識的には100％完全なコンディションで吹笛することが果たして可能であったかどうか、我々にも考えさせられたことでもあった。

10時　3位決定戦
韓　国32－22クウェート
インドAレフェリー担当

前半互いに得点の取り合いになったが、韓国は速攻で一気に引き離し16－9で前半を折り返した。後半ラフプレーがクウェートに目立ち、韓国の速攻を更に許した。

14時　決勝戦
中　国24－19日　本

力のこもった好ゲームであったが、立ち上がり日本の動きが悪く前半1点を争う展開となった。後半、日本のエース蒲生が徹底的にマークされ、うまいディフェンスで中国が守り切り中国が初勝利を飾った。

日本の積年の念願であったアジア大会での金メダル獲得は、新興中国のパワーハンドボールによりアジアの王座を失なうという結果となり、日本ハンドボールは再び原点に立って再建を思考すべき時期が到来したといえよう。口に合わない食事や飲料水に用心することなどで連日悩まされ、市内の交通状態の無秩序さに驚き続け、すべてに考える物差しの違う西アジ

ア人との交際は真に有意義であったと思う。私達も本大会の成功に一役担ったものと確信しつつ12月2日22時32分、無事成田空港に帰着した。

## ☆アジア大会の雑感☆

会場のデリー大学は、ニューデリー市中心地から地方へ30㎞程離れたところにあり、構内はたいへん緑に恵まれた環境の良いところで、この中にグランドにタラフレックスを敷きつめて（これはクウェートの寄付によるもので67、000ドルだそうです）あり、これは適度の硬さで表面も滑らず良好なコンディションを保っていた。

競技運営は、AHFハッサン氏、インドのカポール氏、カーン氏、ヤシイン氏、そしてIHFのカールワング氏、渡辺和美氏により進行されていた。毎日試合は2〜4試合が行われ、私達は昼食をとりにホテルに帰っていると午後の試合を見られなくなるためいつも会場内の食堂で、あやしげな焼きそばでごまかさざるを得なかった。

ドーピングテスト、メンバー提出、トス、服装検査などは時間通りに行われたが、始めの2日間は、ハーフタイム10分間が西アジアのチームはルーズで12〜15分にも及ぶことがあった。このことについては、全てレフェリーが責任を持って守らせるようすべきである、とカールワング氏から直接注意を受けた。もし規定を守らなかったチームが勝ったら抗議の原因となりかねないからである。

電光掲示板は、日本製品により完備されていたが、これ等の機器は大会終了後、日本に送り返されるとのことでした。日本ではどこの会場にもある床拭モップが用意されておらず、汗や血でよごれたとき拭きとるのに毎度時間がかかった。負傷者が出ると処置や手当をコート内で行うので、中断の時間がややもすれば長くなり過ぎることがあった。使用球は、日本のミカサボールで、終始3コを用いるのみであった。ハーフタイムと終了後のレフェリーメモと記録係のスコアーシートとの照合は常に行われたが、記録係の方のミスが時々見られた。時間管理の面でも30秒以上も長くなったこともあり、ワング氏、渡辺氏といったIHFのお歴々がウォッチを握ってタイムキーパーになる始末もあった。

## ☆アジア大会 各国レフェリーの様子☆

今大会では、7ペアのレフェリーで18試合を消化した。クウェートやバーレーンのペアは、早い動きについての判定には一定のものがあったが、ペナルティーやチャージング、ブロッキングの判定には少なからず疑問をいだかせることがしばしばあった。韓国のペアの判定は非常にムラがあり、ある時は非常にきびしいかと思うと、次にはルーズになり、その吹笛音そのものも普通のものでなく、P、P、ピピピ、の連発で聞き苦しくまた見苦しかったと思う。アラブ連合インドのレフェリーは、接触プレーや早い動きに馴れていないせいもあるのか、とまどいがみられる有様で、プレーヤーが不信感を持ち判定に不満を示したため赤カードを出される状態にまでなってしまった。

## ☆IHFパネルAの課題

この度私達は、アジア大会ハンドボール部門のレフェリーとして参加の機会を得て、またと得られない幾多の体験と勉強をすることができた。オリンピック大会、世界大会と同形式で、それがインドという未知の国で事前に細部の連絡もほとんどないままにインドに入国した。そのとき最も困ったのは、プログラムは愚か印刷物すら用意されておらず、それに代るものを求めるのにも手間暇がかったことである。全て所要の機関へ直接足を運び、口と耳で意志を交換し、計画、行事、日程等を知り、その方法を理解しなければならなかったのである。このことからも、パネルAの者は勿論のこと、今後それを目指す者は、審判技術の研究は当然であるが、意志交換の手段である外国語（英、独、仏）を常に音声をもって表現し、インスタントであっても意志の相互交換のできる能力を養成することが必須であることを強調したい。

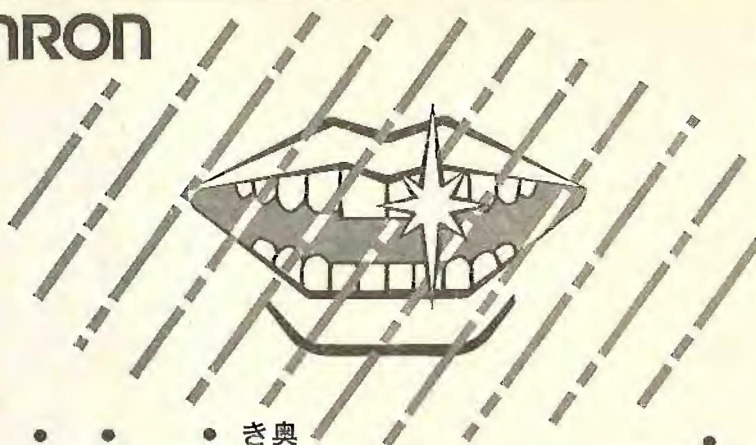
今回の見聞体験によって我々日本のレフェリーは、技術的に決して劣ったものではなく、世界に通用するものであることは確認した次第であるが、国際場裡においては、レフェリー術だけではこれまた通用しないことも確認したのである。故に、外国語による説得能力、交渉能力が必須であり、平然とできる度胸が外国人との対話、交際、人間性を積極的に示すことなのであると信じている。将来日本のレフェリーがオリンピックや世界大会にノミネートされるためには、絶対に必要不可欠のものであることを重ねて強調したい。

少なくとも現在のパネルAの方は、自己研修をすすめることが責務である。アジア大会のミーティングのとき、韓国のペアが英語に弱いことで自国人の通訳を同席させたところ、ワング氏から指摘をうけ室外に退去させられたことがあり、この点にもIHFパネルAに対する姿勢には、はっきりとしたけじめがうかがえた。

OMRON

# 「歯」キラキラ

シャワーで一日の汗を流すように、
歯のよごれを落としてシェイプアップ!!



**ジェット水流が歯と歯ぐきを守ります。**

- ジェット水流が歯ぐきの健康によい適度な刺激を与えます。
- 食べカスを洗い流し、口臭を除きます。
- 水流はゆるくも、強くも調整できます。

**奥歯も歯ウラもきれいにみがけます。**

- 歯医者さんおすすめの、正しいみがき方ができます。
- 7倍の速さでみがけるローリング式です。
- 充電式だから、旅行にも便利です。
- 歯みがきの時間のわかる砂時計つきです。



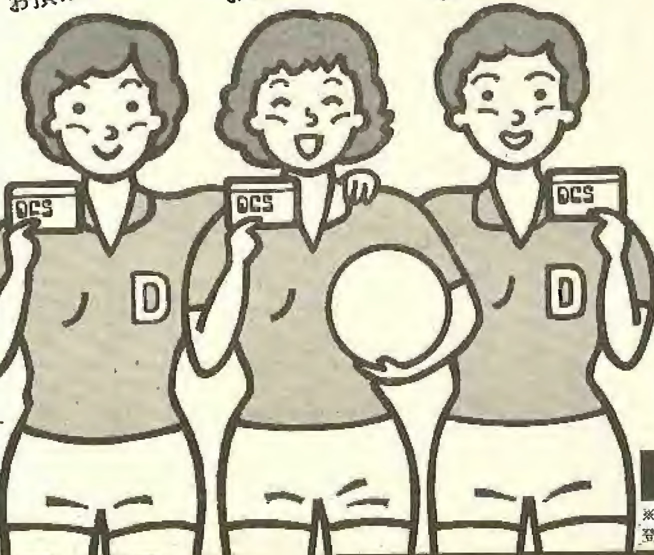
オムロン電動歯ブラシ
**エレデント**
HT-B10 ¥5,950

オムロン口腔洗浄器
**エレピック**
HT-J11 ¥14,500

立石電機株式会社 〒616 京都市右京区花園土堂町10

# 便利です。ダイワキャッシュカード。

お預け入れに…　お引き出しに…　お振り込みに…




ダイワキャッシュカード1枚で、現金のお預け入れ、お引き出し、ダイワ本支店や※他行へのお振り込みなどがスピーディにすませられます。通帳もハンコもいりません。ハンディな1枚、あなたもお持ちになりませんか。

あなたと明日を

預金も信託も…

**大和銀行**

※他行へのお振り込みは、あらかじめ登録が必要です。

●特別レポート

# 神奈川県高等学校におけるハンドボール実施状況

神奈川県立金井高等学校　設楽孝治

## 1　目的

昭和57年度より、指導要領改定に伴い新指導要領が実施されたわけであるが、神奈川県高等学校において、集団的スポーツのハンドボールが改定前と改定後、教科体育でどのように採用されているのか、また、学年別、男女別、配当時間等を調査してみた。

## 2　調査方法

神奈川県高等学校、公立、公立定時制、私立高校を対象にアンケート方式により調査した。

表1

| | 学校数 | 回収数 | 回収率(%) |
|---|---|---|---|
| 公　立 | 147 | 126 | 85.7 |
| 私　立 | 67 | 47 | 70.1 |
| 定時制 | 25 | 19 | 76.3 |
| 計 | 239 | 192 | 80.3 |

## 3　調査結果

アンケートの回収率(表1)は、全体で80・3%とかなり高率であった。

56年度における教科体育でのハンドボール実施状況(表2)は、公立高校73・8%、私立高校44・7%。公立定時制では10・5%であった。この結果で、想像していたより実施校が多いことがわかった。

表2　昭和56年度ハンドボール実施校

| | している | | していない | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 公　立 | 93 | 73.8% | 33 | 26.2% | 126 |
| 私　立 | 21 | 44.7% | 26 | 55.3% | 47 |
| 定時制 | 2 | 10.5% | 17 | 89.5% | 19 |
| 合　計 | 116 | — | 76 | — | 192 |

それでは、学年別、男女別実施数(表3)、さらに配当時間数(表4)をみてみると、学年別では、1年生で87校、2年生で85校であり、3年生になると約半数の47校になってしまう。男女別では、男より女子の方が定時制を除いて多い。配当時間数は、6～20時間が多かった。

表3　昭和56年度　学年別・男女別実施数

| | 1年 | | | 2年 | | | 3年 | | | 4年 | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | | 男 | 女 | | 男 | 女 | | 男 | 女 | | 男 | 女 | |
| 公　立 | 34 | 43 | 77 | 31 | 41 | 72 | 18 | 23 | 41 | — | — | — | 83 | 107 | 190 |
| 私　立 | 4 | 6 | 10 | 4 | 8 | 12 | 1 | 4 | 5 | — | — | — | 9 | 18 | 27 |
| 定時制 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 4 | 1 | 5 | 6 | 1 | 7 |
| | 38 | 49 | 87 | 36 | 49 | 85 | 20 | 27 | 47 | 4 | 1 | 5 | 98 | 126 | 224 |

表4　昭和56年度配当時間数

| 時間数 | | 5以下 | 6～10 | 11～15 | 16～20 | 21～25 | 26以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 実施校 | 公立 | 3 | 36 | 74 | 37 | 17 | 13 |
| | 私立 | 1 | 5 | 10 | 2 | 1 | 4 |

次に、昭和57年度指導要領改定数に県内の高等学校での採用種目(表5)をみてみると、ハンドボールは、バレーボール、バスケットボール、サッカー(男子のみ)について、実施されている。

それでは、ハンドボール採用校での学年別、男女別実施数(表6)では、公立、私立、定時制の各学年とも約半数に減っている。昭和56年度と57年度の比較は、図1・2を見ればあきらかである。

表5　昭和57年度採用種目

| | | | 公立 | 私立 | 定時制 | 公立(%) | 私立(%) | 定時制(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (1)集団的スポーツ | イ | ハンドボール | 82 | 17 | 3 | 65.1 | 36.2 | 15.8 |
| | ロ | バスケットボール | 117 | 44 | 19 | 92.9 | 93.6 | 100.0 |
| | ハ | バレーボール | 120 | 44 | 19 | 95.2 | 93.6 | 100.0 |
| | ニ | サッカー | 106 | 21 | 17 | 84.1 | 44.7 | 89.5 |
| | ホ | ラグビー | 53 | 8 | 3 | 42.1 | 17.0 | 0 |
| (2)個人的スポーツ | イ | 器　械 | 104 | 34 | 16 | 82.5 | 72.3 | 84.2 |
| | ロ | 体　操 | 92 | 30 | 13 | 73.0 | 63.8 | 68.4 |
| | ハ | 水　泳 | 83 | 18 | 10 | 65.9 | 38.3 | 52.6 |
| | ニ | 陸　上 | 121 | 38 | 17 | 96.0 | 80.9 | 89.5 |
| (3)格技 | イ | 剣　道 | 35 | 9 | 9 | 27.8 | 19.1 | 47.4 |
| | ロ | 柔　道 | 88 | 10 | 9 | 69.8 | 21.3 | 47.4 |
| | 他 | 公立(検討中)私(なぎなた)定(なし) | 1 | 1 | 3 | 0.8 | 0.8 | 15.8 |

## 4　考察

今回、神奈川県高等学校におけるハンドボール実施状況を指導要領改定にともない、昭和56年度と57年度においてアンケートにより比較調査したのであるが、昭和57年度指導要領改定後では、ハンドボール採用が改定前の約半数に減っている。これは、指導要領改定の主旨である種目の精選により、集団的スポーツでは、バレーボー

ル、バスケットボールが多く採用されたためである。

このことは、これからのハンドボールの普及、強化対策を考えて行くうえで大きな課題を残している。ハンドボールは、水泳、体操、バレーボール等と違い学校教育の場以外では、経験させる組織がほとんどない。

現在高校1クラスで、中学時に教科体育でハンドボールの経験がある者は2～3名という状態であり、ほとんどが高校で初めて経験する者ばかりである。そのため、初心者のための指導法、特に女子に対する指導法に創意工夫が必要である。また、配当時間が15時間位では、ハンドボールを理解するまではゆかずに終わってしまうのが普通である。

表6　昭和57年度　学年別・男女別実施数

| | 1年 | | | 2年 | | | 3年 | | | 4年 | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | | 男 | 女 | | 男 | 女 | | 男 | 女 | | 男 | 女 | |
| 公立 | 21 | 27 | 48 | 12 | 17 | 29 | 7 | 8 | 15 | | | | 40 | 52 | 92 |
| 私立 | 1 | 2 | 3 | 2 | 4 | 6 | 1 | 0 | 1 | | | | 4 | 6 | 10 |
| 定時制 | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 3 | 2 | 5 |
| | 22 | 29 | 51 | 14 | 21 | 35 | 9 | 9 | 18 | 2 | 1 | 3 | 47 | 60 | 107 |

これらの問題点を解決するために、今後の課題として次のように考える。

(1) 小学校、中学校での普及活動

・ハンドボールの専門者でない指導者が気軽に指導できる指導教本の作制。

・ミニハンドボールのルール制定。

・ミニハンドボールの確立とミニハンドボール大会の開催

・小学校、中学校における講習会、研修会の開催。

(2) ボールの硬軟と大きさの工夫

以上の事柄が考えられると思う。高等学校における指導要領改定を機に、普及対策について考えてもよいのではないか。

図1
昭和56年度・57年度実施校の比較(男子)

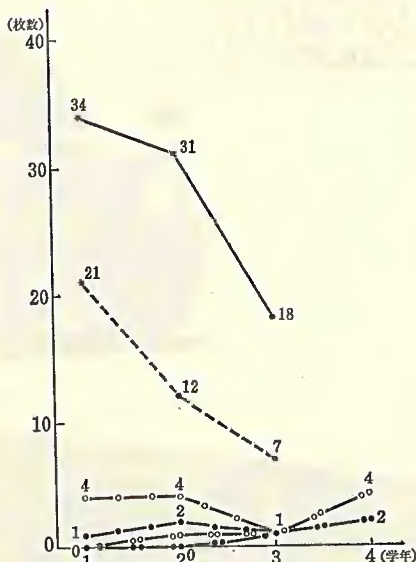
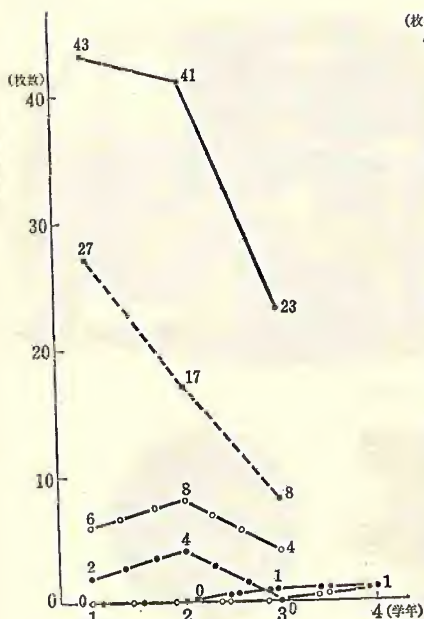



図2
昭和56年度・57年度実施校の比較(女子)



# フットワークはフォーメーションから生まれます。
# だれが駆けても、

## シティは、スポーツマン。

# CITY TURBO




こんなホットな出来事は、はじめて。シティが、またまた感度をアップしました。世界初のFF1.2ℓハイパーターボ搭載です。豪快な瞬発力。一気に攻めのぼるダイナミックな走り。驚くほどの低燃費。これこそホンダの考えるターボだ、との自信をみなぎらせ、いま圧倒的な速さでシティターボが駆けだしました。時代がビンビン反応します。ネットワークがさらに広がります。ライブです。衝撃的です。シティターボです。ことし、最大のニュースです。




**100馬力ハイパーターボ登場**

ターボ車ナンバー1
10モード燃費
18.6km/ℓ

**HONDA**

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所

勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

# "Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.




## 勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

―――無言の威圧感を与えるヒュンメル―――

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社ダブルスコア/総代理店 大松貿易株式会社
大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL.(06)213-6646

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二一六号
昭和四十年… 日 昭和五八年二月二十五日 印刷
第三種郵便物認可 昭和五八年三月一日発行
…都渋谷区神南一―一―一
電話 代表（467）七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円
（年間購読料三千三百円）